

令和 2 年度

「基礎学力調査」

－ 指導事例 －

令和 2 年 9 月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成	1
I 改善に向けた指導事例	3
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	10
《小学校第6学年 社会》	16
《小学校第6学年 理科》	20
《中学校第3学年 社会》	26
《中学校第3学年 理科》	30
《中学校第3学年 英語》	34
II スマートスクールネット「いしかわ学力向上プログラム」の活用 に向けて	39
1 スマートスクールネット	41
2 いしかわ学力向上プログラム	41
3 いしかわ学力向上プログラム 各項目の紹介	44

本書の構成

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響を考慮し、県として調査を実施しないこととしました。

本書の改善に向けた指導事例においては、教科ごとに、課題が見られるであろう設問を想定し、授業等の一例を示すものとして作成しております。

学習指導の改善・充実に向けて、本書の一層のご活用をお願いします。

I 改善に向けた指導事例

・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項 目	内 容
①	問題と解答 の状況	・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点 ・正答例，予想される誤答例
②	指導法改善 に向けて	・誤答の要因 ・指導に当たって
③	参考となる 他の指導事 例や調査問 題	・参考となる指導事例 以下の略称を用いて記載しています。 (全) …「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例 (県) …「基礎学力調査－分析・考察－」に掲載されている事例 (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例 ・参考となる調査問題 以下の略称を用いて記載しています。 (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題 (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題 (P) … WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題
④	改善事例	・学年，単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

・関連する「プラス学びの12か条+」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

II スマートスクールネット「いしかわ学力向上プログラム」の活用に向けて

I 改善に向けた指導事例

小学校 第4学年
「国語」「算数」

ア 事例1

目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
□4	読むこと	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用することができる。	・国語への関心・意欲・態度 ・読む能力

- 4 東さんは調べて分かったことをしょうかいし合う活動の中で、大石さんから次のような質問を受けました。質問に対する東さんの答えについて、□① □② にあてはまる言葉を、【図かん】の中の言葉を使って書きましょう。

正答例	予想される誤答例
①けいたい電話 ②画面の文字の大きさやボタンの文字の見やすさ	① ・けいたい ・電話 ② ・お年寄りや、目が不自由な人も使いやすいように、画面の文字の大きさやボタンの文字の見やすさなどをくふうしたものもある。 ・画面の文字の大きさ ・ボタンの文字の見やすさ

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用することができる」である。

ここでは、語句や文章の一節を引用する際、質問の意図に合わない語句や文章の一節をそのまま引用する誤答が予想される。この要因として、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読ませる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、引用した語句や文章の一節が目的に応じているかどうかを問い返し、目的に立ち返らせて文章を読ませる指導が重要である。また、「どうしてその文章を選んだのか」を問い返し、意図的に目的に応じた語句に着目させることで、文章の要点や細かい点に注意して読ませたり、目的を意識して必要な語句を判断している児童の発言を価値付けたりする指導も重要である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H30：事例2 H28：事例2

(全) H27：A五2 (県) R1：二4 H30：二2 H29：二3 H28：二5

- ④ 改善事例 第3学年「じょうほう あつめるときに使おう 引用するとき」 光村図書三年上
第4学年「目的に合わせて調べよう」 東京書籍四年下

1 指導のねらい

目的に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用することができる。
(知識及び技能(2)イ、読むこと 言語活動例 ア)

単元計画	第一次	1時 引用の決まりを知り、文章の一部を引用して自分の考えを伝えることに興味をもつ 言語活動 《「こまを楽しむ」から引用して、きょうみをもったこまと遊び方をしょうかいし合おう》 2時 興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を紹介カードに書く 3時 紹介カードを読み合い、目的に応じて引用できているかを確認め、興味をもったこまとその遊び方を紹介し合う
------	-----	--

2 具体例

3時 紹介カードを読み合い、目的に応じて引用できているかを確認、興味をもったこととその遊び方を紹介し合う

自分が興味をもったこまの「遊び方」について正しく引用できているか、グループで確かめ合ひましょう。



※光村図書三年上 P54～55 参照



【初めに書いたAさんの紹介カード】

しょうかいカード

ぼくがきょうみをもったこまは、「ずぐり」です。

「ずぐり」は、「雪の上で回して遊ぶことができるように、心ぼうの先が太く、丸く作られています」。

ぼくは、雪の上でこまを回したことがないのできょうみを持ちました。

〈使った本〉

安藤 正樹「こまを楽しむ」

五十四ページ

光村図書、二〇一九年



Aさん

ぼくが興味をもったこまは、「ずぐり」です。「雪の上で回して遊ぶことができるように、心ぼうの先が太く、丸く作られています。」の文から引用しました。

Aさんの紹介カードから、「ずぐり」の遊び方は分かりますか？【目的に立ち返らせる】



分かりません。
引用したところには、「**作られています**」と書いてあるので、「ずぐり」の遊び方の紹介ではないと思います。

言葉に注目して、確かめていますね。

【価値付ける】

「ずぐり」の「遊び方」は、教科書の文章の中のどの言葉に注目したらよいのでしょうか？
【語句に着目させる】



Bさん

「**回します**」に注目したらいいと思います。だから、「遊び方」は、「**わらでできたなわを使って、その中になげ入れて回します**。」の文から引用すると思います。



「**その中**」とはどこのことなのか、分からないよ。だから、「遊び方」について、くわしく分からないな。



Cさん

「**その中**」とは、「小さなくぼみ」のことなんだね。「遊び方」をくわしく紹介するためには、「**まず、雪に小さなくぼみを作り**、」も引用する必要があるね。

【Bさんの考えを聞いて修正したAさんの紹介カード】

しょうかいカード

ぼくがきょうみをもったこまは、「ずぐり」です。

「ずぐり」は、「**わらでできたなわを使って、その中になげ入れて回して遊びます**」。

ぼくは、雪の上でこまを回したことがないのできょうみを持ちました。

〈使った本〉

安藤 正樹「こまを楽しむ」

五十四、五十五ページ

光村図書、二〇一九年

【Cさんの考えを聞いて修正したAさんの紹介カード】

しょうかいカード

ぼくがきょうみをもったこまは、「ずぐり」です。

「ずぐり」は、「**まず、雪に小さなくぼみを作り、わらでできたなわを使って、その中になげ入れて回して遊びます**」。

ぼくは、雪の上でこまを回したことがないのできょうみを持ちました。

〈使った本〉

安藤 正樹「こまを楽しむ」

五十四、五十五ページ

光村図書、二〇一九年

※東京書籍では、「引用の仕方」について、次のように記述されている。

- 引用する部分は、自分の考えと区別して、かぎ（「」）などを付けて書く。
- 引用する部分は、元の文章の形のまめき出す。
- 文章全体ではなく、必要な部分だけを引用する。
- 引用した本の書名、筆者名（作者名）、出版社名、書かれていたページなどを正しく書く。



図や写真、グラフから引用することもあります。引用するときは、調べる目的に合う部分を正しくぬき出させましょう。



イ 事例2

文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文の構成を理解させる学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	修飾と被修飾との関係について、理解することができる。	言語についての知識・理解・技能

- 4 次の文の 貝を に係っている修飾語（くわしくしている言葉）はどれですか。次のア～オから一つえらび、その記号を書きましょう。

わたしは きのう 海で きれいな 貝を 拾いました。
 ア イ ウ エ オ

正答例	予想される誤答例
エ	ウ, オ

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「修飾と被修飾との関係について、理解することができる」である。

ここでは、「ウ」や「オ」を選択するという誤答が予想される。この要因として、「修飾語」の役割について理解させる指導及び「どの言葉を修飾しているか」という語句相互の関係を理解させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、導入で、「主語」と「述語」だけの文を取り上げ、「修飾語」の必要性に気付かせることが大切である。また、「述語」を修飾する「修飾語」, 「主語」を修飾する「修飾語」, 「修飾語」を修飾する「修飾語」と順を追って指導し、修飾と被修飾の関係を理解できるように板書で整理することも大切である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) R1 : 4 H30 : 4 H29 : 4 ② (P) 「修飾と被修飾の関係」

- ④ 改善事例 第3学年「修飾語を使って書こう」 光村図書三年下
 第3学年「くわしく表す言葉」 東京書籍三年上
 第4学年「文の組み立てと修飾語」 東京書籍四年上

1 指導のねらい

文の中での語句の役割や、主語と述語、修飾と被修飾との関係について理解することができる。
 (知識及び技能 (1) 力)

2 具体例



学習発表会の案内を書こうと思い、「主語」と「述語」に気を付けて文を書いてみました。相手に必要なことが伝わる分かりやすい文になっていますか。



「いつ」学習発表会があるのか分からないよ。



「どこで」学習発表会があるのかも分からないね。

【教師が提示する文】

学習発表会があります。

導入では、「主語」と「述語」だけの文を取り上げ、「修飾語」の必要性に気付かせましょう。



どうしたら相手に必要なことが伝わる文になりますか。

学習発表会が「いつ」あるのか分かるように、
「学習発表会が十月八日にあります。」にすると
いいね。

三年教室で行うから、「学習発表会が十月八日に三年教室であります。」にすると、「どこで」あるのかも分かるようになるね。



「十月八日に」と「三年教室で」の言葉を加えると、文が詳しくなりましたね。
「いつ」「どこで」のように文の意味を詳しくする言葉を「修飾語」といいます。

【板書例①】

修飾語の役割について、
指導しましょう。



「十月八日に」という修飾語は、どの言葉を詳しくしていますか。

「あります」を詳しくしています。

「三年教室で」という修飾語は、どの言葉を詳しくしていますか。

「あります」を詳しくしています。

どちらも「あります」の「述語」を詳しくしていますね。(板書に矢印をかきながら) このように、詳しくすることを「係る」「修飾する」と言います。【板書例①】

どの言葉を修飾しているのか（どの言葉に係っているのか）を理解できるように、「述語」に係る「修飾語」，「主語」に係る「修飾語」，「修飾語」に係る「修飾語」と順を追って指導しましょう。

この文をもっと詳しくするとしたら、どんな修飾語を加えることができますか。

「社会科の学習発表会
が」にすると、もっと
詳しくなるよ。

「二階の」という修飾語を加えて、
「二階の三年教室で」にすると、もっと詳しくなるよ。

「社会科の」や「二階の」は、どの言葉に係りますか。

「学習発表会が」に係ります。

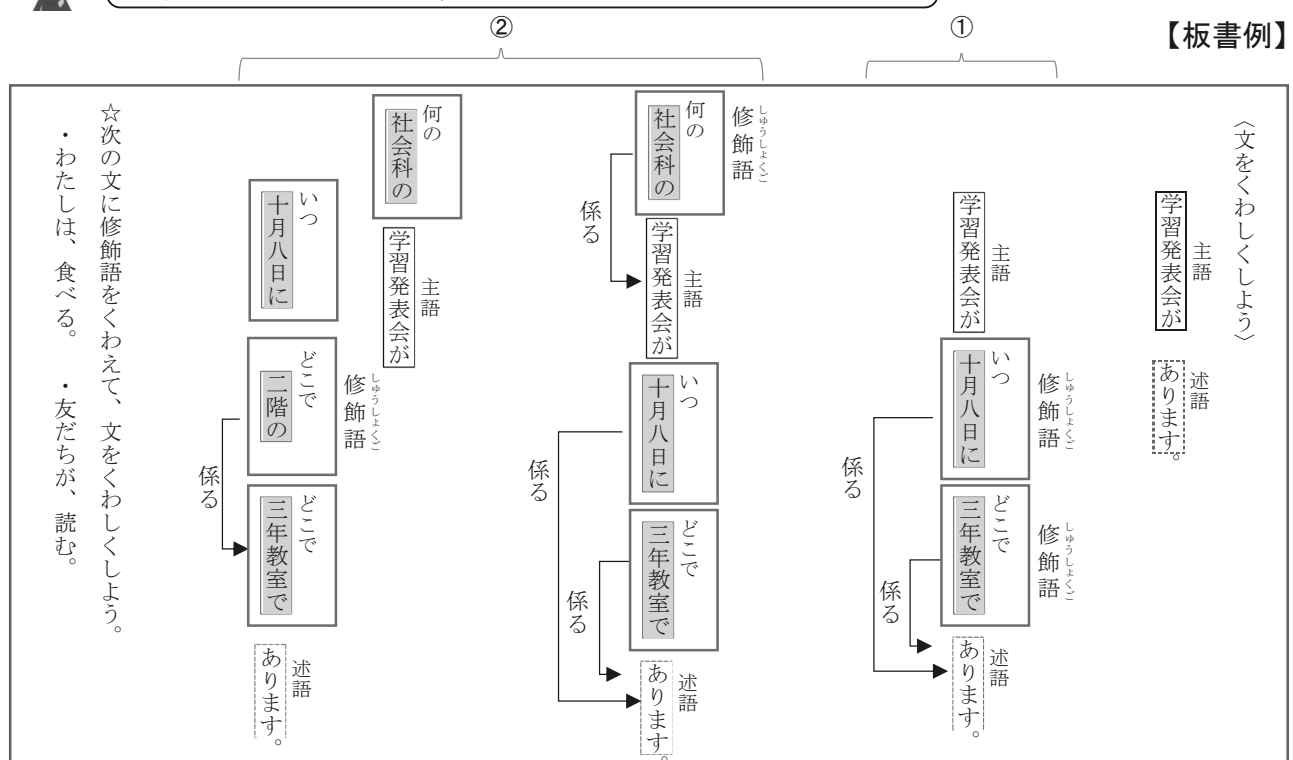
「三年教室で」に係ります。

「社会科の」は「主語」の「学習発表会が」に係り、「二階の」は「修飾語」の「三年教室で」に係りますね。【板書例②】

修飾と被修飾の関係が理解できるように、分かりやすく整理された板書にしましょう。

「主語」と「述語」だけの文に「修飾語」を加えたら、相手に必要なことが伝わる分かりやすい文になったね。

【板書例】



(※「係る」は光村図書,「修飾する」は東京書籍で使用している言葉)

ア 事例1

用語の意味を理解し、図形を構成する要素に着目して、図形を弁別する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (4)	図形	三角形の定義について理解している。	・数量や図形についての知識・理解

- 2 (4) はるとさんがかいた下の①～④を見て、めいさんとはるとさんが話し合っています。あとの①～④にあてはまる数や言葉を書きましょう。



①本の②で③いる形を三角形というよ。



それなら、三角形は④だけだね。三角形で、ひとつひとつの⑤を辺というよ。

正答例	予想される誤答例
① 3 (本) ② 直線 (で) ③ かこまれて (いる)	④ 線 (で) ⑤ つながって (いる) ⑥ できて (いる)

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「三角形の定義について理解している」である。

ここでの誤答は、⑤については、「線」、⑥については、「つながって」や「できて」等が予想される。この要因として、図形の定義に関する意味理解及び用語の定着における指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、図形の構成要素に着目して、三角形や四角形の約束や特徴について実感的に理解できる活動の充実を図ることが大切である。

また、図形を弁別する学習を通して、児童が、その図形の定義に基づいて説明する活動を設定することも大切である。例えば、上記の本設問の①～④を取り上げ、図形の弁別の理由を説明する際、児童の素朴な表現「3つ・線・つながっている」等を、三角形の定義で用いられる用語「3本・直線・かこまれている」等に表現し直すことを意図的に指導し、三角形の図形の定義そのものの定着及び定義を用いた弁別の理由の説明ができるよう指導することが大切である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H23 : 事例1

(全) H27 : A 5 (1) H23 : B 3 (2) (県) H29 : 4 (1) H28 : 4 (1) H27 : 6 (2) H26 : 7

④ 改善事例 第2学年「三角形」・第3学年「三角形」

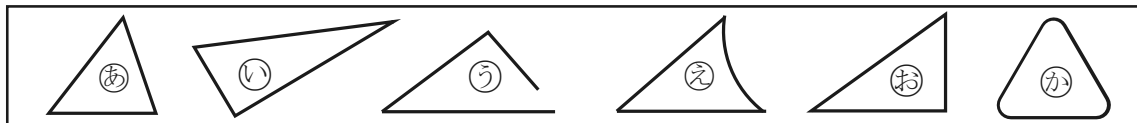
1 指導のねらい

図形を弁別する際に、弁別の理由を図形の定義を用いて説明することができる。

2 具体例

(1)〔第2学年〕図形を弁別した理由を図形の定義に基づいて説明する活動

【問題】三角形とそうでないものに分けましょう。また、そのわけもノートに書きましょう。



(例) 予想される児童の考えと、それに対する教師の問い返し

①, ②, ③は三角形です。わけは、3本の直線でかこまれているからです。

わけを「三角形の約束」の言葉を使って言えましたね。では、他の図形は、三角形ではないのでしょうか。

④や⑤は、三角形ではありません。わけは、線がまがっているからです。

「直線」の用語を引き出しましょう。

まがった線がどんな線だったら三角形になるの？

直線なら三角形になります。

⑥は三角形ではありません。わけは、直線でつながっていないからです。

「かこまれている(いない)」の用語を引き出しましょう。

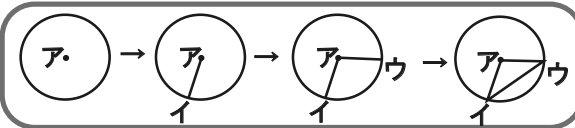
「三角形の約束」の言葉を使って、わけを言えますか？

3本の直線でかこまれていないからです。

定義と異なる表現については、定義を用いた表現となるように問い返し、定義そのものの理解と定着につなげます。

(2)〔第3学年〕複数の図形を関連付けて定義に基づいて説明する活動

【問題】右のように、円の中心と円のまわりをつないで三角形をかきました。この三角形は何という三角形ですか。また、そのわけをノートに書きましょう。



〔二等辺三角形の定義〕

2つの辺の長さが等しい三角形

児童が円を用いて三角形を作図したり、教師が板書やICTを用いて三角形を作図する過程を示したりすることは、児童の「三角形の2辺は円の半径と同じであること」の気づきにつながります。

(例) 児童の状況に応じた教師の手立て

この三角形は何という三角形かな？

アの点は円の中心だから、アイとアウは円の何になるかな？

アイとアウは円の半径です。

「円の半径が二等辺三角形の2辺を構成していること」への気づきにつなげましょう。

アイとアウの辺は円の半径だ。でも、三角形の名前は何か？

アイとアウの辺が円の半径であることに気付いたね。では、円の半径の約束はおぼえているかな？

1つの円では、半径はみんな同じ長さです。

「円の半径は全て長さが等しいこと」を想起させましょう。

1つの円の半径は長さがみんな等しいから二等辺三角形だ。

半径が同じ長さだったら、どうして二等辺三角形といえるの？

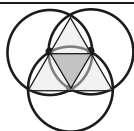
1つの円の半径は、長さがみんな等しいから、この三角形は、2つの辺の長さが等しいので、二等辺三角形です。

児童の素朴な説明を「二等辺三角形の定義」を用いて、洗練された説明にしましょう。

【その他の具体例】〈色のついた多角形は何という多角形ですか。また、そのわけも説明しましょう。〉

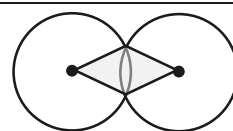
〔第3学年〕「三角形」

- ・円を使ってできる
- 正三角形



〔第4学年〕「垂直・平行と四角形」

- ・円を使ってできる
- ひし形



イ 事例2

複数の事象から帰納的に考え、きまりを見いだし、表現する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7 (2)	数と計算	いくつかの場合からきまりを読み取り、説明することができる。	・算数への関心・意欲・態度 ・数学的な考え方

7 めいさんとはるとさんは、かけ算九九の式と答えをまとめた紙を見て話し合っています。次の問いに答えましょう。

(2) めいさんは、9のだんの九九の答えの「十のくらいの数字」と「一のくらいの数字」に目をつけて、次のように考えました。



めい

「 $9 \times 2 = 18$ 」で考えると、「 $1 + 8 = 9$ 」
「 $9 \times 3 = 27$ 」で考えると、「 $2 + 7 = 9$ 」
「 $9 \times 1 = 9$ 」も「十のくらいの数字」を0と考えると、
「 $0 + 9 = 9$ 」
9のだんの九九の答えには、きまりがあるよ。

9のたん	十のくらいの数字	一のくらいの数字
$9 \times 4 = 36$	$\dots 3 + 6 = 9$	
$9 \times 5 = 45$	$\dots 4 + 5 = 9$	
$9 \times 6 = 54$	$\dots 5 + 4 = 9$	
$9 \times 7 = 63$	$\dots 6 + 3 = 9$	
$9 \times 8 = 72$	$\dots 7 + 2 = 9$	
$9 \times 9 = 81$	$\dots 8 + 1 = 9$	

めいさんと同じように考えると、のこりの9のだんの九九は左のようになったよ。
めいさんが見つけたきまりが、たしかめられたね。



はると

めいさんが見つけた9のだんの九九の答えのきまりを「十のくらいの数字」、「一のくらいの数字」の2つの言葉を使って書きましょう。

正答例	予想される誤答例
十のくらいの数字と一のくらいの数字をたすと9（同じ数）になる。	・たした答えは9になる。 ・十のくらいの数字は1ずつふえて、一のくらいの数字は1ずつへっている。

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「いくつかの場合からきまりを読み取り、説明することができる」である。

ここでの誤答は、「十のくらいの数字」と「一のくらいの数字」の2つの言葉を使わずに足した答えのみを記述したりしているものや、「十のくらいの数字」と「一のくらいの数字」の増減を記述したりしているものが予想される。この要因として、帰納的に考察する学習活動や見いだした数量の関係「きまり」を適切な言葉と数を用いて表現する活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、帰納的に考えてきまりを見いだす学習場面を意図的に設定し、見いだしたきまりがいつでも成り立つかどうかを考え、一般化して表現することができるようにすることが大切である。その際、帰納的な考え方を身に付けることができるよう、「あつめる・みつける・たしかめる・まとめる」のそれぞれの学習過程を意識させることや、振り返りの場において、どのように考えることできまりを見いだし、一般化して表現することができたのかを扱うことが必要である。このことは、今後のきまりを見いだす学習活動において、主体的にきまりを見い込もうと取り組む態度の育成につながると思われる。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H30 : 事例1 H26 : 事例1

(全) H30 : B 4 H29 : B 1 H28 : B 1 (県) R1 : 5 (2) H30 : 6 (2) H29 : 8 (2) H27 : 8 (2)

④ 改善事例 第2学年「かけ算(2)」

1 指導のねらい

複数の具体例について、帰納的な考えを用いてきまりを見いだし、説明できる。

2 具体例

(1) 九九の表から帰納的な考えを用いてきまりを見いだし、表現する活動



九九の表を見て、9のだんの九九の答えにはどんなきまりがありそうですか？

①あつめる…複数の具体例を集める



足したら「 $1+8=9$ 」, 「 $2+7=9$ 」になるね。
引いたら「 $8-1=7$ 」, 「 $7-2=5$ 」になるよ。

②みつける…きまりを見い出す



(板書)

9のだん	十のくらの 数字	一のくらの 数字		
$9 \times 2 = 18$	1	8	+	9
$9 \times 3 = 27$	2	7	+	9

きまりは9になりそうだね。



9は何を表している数かな？
友だちにも伝わるように説明しましょう。



構造的な板書の工夫により児童の気づきを促しましょう。



9は、十のくらの数字と一のくらの数字を足した数です。



見いだした数量の関係を適切な言葉と数を用いて説明する活動を取り入れることが大切です。その際、不十分な表現については、その場で問い返し、適切な言葉と数を用いた表現に洗練しましょう。

③たしかめる…別の具体例できまりを確かめる



残りの9のだんの九九の答えも、見つけたきまりが成り立つかな？

(板書)

9のだん	十のくらの 数字	一のくらの 数字		
$9 \times 1 = 9$	0	9	+	9
$9 \times 2 = 18$	1	8	+	9
$9 \times 3 = 27$	2	7	+	9
$9 \times 4 = 36$	3	6	+	9
$9 \times 5 = 45$	4	5	+	9
$9 \times 6 = 54$	5	4	+	9
$9 \times 7 = 63$	6	3	+	9
$9 \times 8 = 72$	7	2	+	9
$9 \times 9 = 81$	8	1	+	9

見つけたきまりを確かめることができたね。



見いだしたきまりが他の場合についても成り立つかどうかを調べようとする態度を育てることが大切です。

④まとめる…数学の用語を用いて表現する

9のだんの九九の答えは、十のくらの数字と一のくらの数字を足すと、9になります。

【学習の過程を振り返る】



見つけたきまりを説明するまでに、どのように考えてきましたか。

すぐに「きまり」としないで、他の場合でも調べたよ。



九九の表の答えからきまりをどのように考えてきたのか、「あつめる・みつける・たしかめる・まとめる」の学習過程を振り返ることが大切です。

(2) 九九の表を用いてきまりを見いだし、表現する活動

具体例(1)以外にも、下記の活動が考えられます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	14	21	28	35	42	49	56	63
8	16	24	32	40	48	56	64	72
9	18	27	36	45	54	63	72	81



九九の表の線をはさんでちょうど反対側の位置にある数は、同じ数になります。



かける数が同じ3のだんと4のだんの答えを足すと、7のだんの答えになります。



まん中の数を2倍した数は、横に並んでいる数を足した数と同じ数になります。

小学校 第6学年
「社会」「理科」

ア 事例1
社会的事象に関する情報を読み取り、多角的に考えたことや選択・判断したことを説明する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6 (2)	地域学習	交通事故から自分自身の安全を守るために気を付けることを、複数の資料を基に考察することができる。	・社会的事象への関心・意欲・態度 ・社会的な思考・判断・表現

6 (2) けんじさんは、警察が交通事故を防ぐために、パトロールを行うなど、さまざまな取り組みをしていることを知りました。資料1と資料2をもとに、交通事故から自分自身の安全を守るために、あなたが日常生活の中で気を付けたいことを書きましょう。

【資料1】小学生の時間帯別交通事故数
(平成26～30年度 大けが等合計)

【資料2】小学生の違反別交通事故数
(平成26～30年度 大けが等合計)

正答例	予想される誤答例
- 小学生が交通事故にあう時間帯は16時台が多く、交通事故の原因として飛び出しが約40%もしているの、飛び出ししないようにする。 - 夕方の時間帯に交通事故が多く、違反で飛び出しの件数が多いので飛び出ししないようにする。	- 夕方に交通事故が多いので、交通事故にあわないように気を付ける。 - 小学生の違反別交通事故は、飛び出しや横断違反が多いので、安全を確認してしっかりと横断歩道をわたるようにする。 - 交通違反をしないようにする。

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「交通事故から自分自身の安全を守るために気を付けることを、複数の資料を基に考察することができる」である。

ここでは、1つの資料から読み取った情報のみを記述したり、資料1と資料2から読み取った情報を記述せず、日常生活の中で気を付けたいことのみを記述したりする誤答が予想される。この要因として、資料の読み取り方が定着していないことや、社会的事象に関する複数の情報を資料から取り出したり、資料から読み取った情報と既習や日常生活場面とを関連させて説明したりする活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、社会的事象に関する複数の情報を資料から読み取ったり、資料と日常生活場面とを関連付けながら、児童が切実感をもって自分たちの行動や生活の仕方について考え、自分の考えを適切に説明したりする言語活動を工夫する必要がある。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H30：事例1 H29：事例1	(県) R1：6 (3) H30：6 (2) (3) H27：3 (2) (3)
-----------------------	--

④ 改善事例 第4学年「水道水を供給する事業」

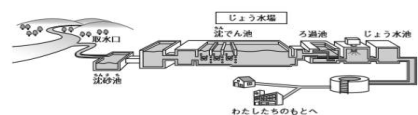
1 指導のねらい

社会的事象に関する情報を読み取り、多角的に考えたことや選択・判断したことを説明する力を育成する。

2 具体例

(1) 前時の復習をし、本時の学習問題を確認する。

【資料1】じょう水場のしくみの図



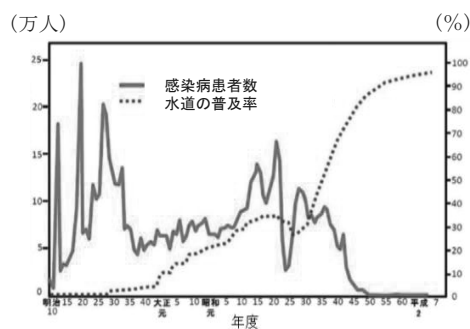
前の時間では、じょう水場のしくみを学習しましたね。どんなことがわかりましたか。



沈でん、ろ過、そして消毒して安全な水を24時間いつでも使えるような仕組みになっていました。

ポイント1：空間・時間・相互関係に着目し、考えを深めることができる資料を提示する。

【資料2】水道の普及率と感染病患者の推移



(水循環白書より作成)



じょう水場のしくみができて、本当に安全な水になってきたのかな。資料2を見てみましょう。何がどのように変わってきていますか。



感染病患者がぐんと減ってきていて0人に近くなっています。水道の普及率が上がってきていて、100%に近くなっています。



水道の普及率が上がると感染病患者数はどのように変化していますか。



水道の普及率が上がると感染病患者数が減っています。じょう水場で安全な水が作られているからだと思います。大切に使いたいと思いました。

【学習問題】〈水道水を大切に使うために自分たちにできることは何か〉

(2) 読み取った情報と日常生活場面とを関連させて考える。



資料集を見ると、僕たちが住んでいるA市では、1人1日に330L使っています。

2Lペットボトルだと、これだけになるのです。

◆実際にペットボトル165本分の実物または、165本分のイラストや写真を提示し、水の使用量を可視化することで、量の多さを実感させる。



えー！そんなに使っているとは思わなかった。水を出しっぱなしにしてはいけないな。



どうしてそう思ったの？ どの資料からそう考えたの？

そう思ったわけは、資料1から、沈でん、ろ過、消毒という仕組みで、多くの人が関わって時間をかけて水が大切に作られているからです。



資料2からも人の命と水は深く関わっているから、水を大切に使ってむだにしてはいけないな。普段の生活でむだに使っている場面はないかな。

(3) 自分たちにできることは何かを選択・判断し説明するために、グループで交流する。

ポイント2：既習（浄水場の仕組み）や本時の資料（水道の安全性を考えるための資料・実物）を基にして、日常生活場面と関連付けて考えさせる。友達の多様な考えを知り、自分の考えを深めさせるために、自分の考えを付箋に書き、グループで交流させる。

身近にある水を使った生活場面を思い出して、自分たちにできることは何かを考えよう。

◆日常生活場面を想起させるために、単元の導入で使用した水を使った日常生活場面の写真を再掲示する。



僕は、資料1や2から、水は人の命と深く関わっていること、安全な水はたくさんの人が協力しあって、24時間いつでも使えるようにしているということが分かったので、はみがきの時に、水を出しっぱなしにしないようにしたいです。



イ 事例2

社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって追究する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(4)②	産業と国土	日本の米づくり農家がかかえる問題について、複数の資料を基に考察し、学習問題として適切に表現することができる。	・社会的事象への 関心・意欲・態度 ・社会的な思考・判断・表現

【資料3】全国の米づくり農家数 (万戸)

年	農家数 (万戸)
1965	480
1975	420
1985	300
1995	250
2005	150
2015	100

【資料4】米の生産量の変化 (万トン)

(資料3・4ともに農林水産省資料より作成)

5(4)② あやさんは、資料3と資料4をもとに学習問題をつくり、予想をノートにまとめました。ノートのFにあてはまる言葉を書きましょう。

【あやさんのノート】

(学習問題) 2005年から2015年までの間に、
F のはどうしてか。
 (予 想) ・生産技術が高まって、おいしいお米を効率よくつくることができるようになったから。
 ・会社として大規模に米づくりを行い、たくさんのお米をつくることのできるようになったから。

正答例	予想される誤答例
(2005年から2015年までの間に、) 全国の米づくり農家数が減っているのに、米の生産量があまり減っていない (のはどうしてか。)	(2005年から2015年までの間に、) ・米の生産量があまり減っていない (のはどうしてか。) ・全国の米づくり農家数が減っている (のはどうしてか。) ・全国の米づくり農家数が減って、米の生産量も減っている (のはどうしてか。)

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「日本の米づくり農家がかかえる問題について、複数の資料を基に考察し、学習問題として適切に表現することができる」である。

ここでは、2つの資料から読み取った情報を結び付けて考えることができず、1つの資料からの情報のみを基に記述したり、2005年から2015年までの変化に着目して情報を読み取ることができず、1965年から2015年までの変化の全体的な傾向を捉えて記述したりする誤答が予想される。この要因として、諸情報の中から目的や条件に応じて情報を読み取ったり、読み取った複数の情報を比較・関連付けて考えたりしたことを基に、気付きや疑問を出し合い、学習問題を見だしていく活動や、予想や学習計画を立てて問題解決の見通しをもって追究・解決していく活動などが不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、資料を読み取る際の視点や複数の情報を比較・関連付けて考える方法を示し、社会的事象についての気付きや疑問、予想を引き出すことが重要である。そして、それらを基に授業の目標を達成するための学習問題を設定し、調べる視点を明確にしながら学習を進めていく必要がある。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) R1 : 事例2 H30 : 事例2 H29 : 事例2

(県) R1 : 5(5)② H30 : 5(3)③ H29 : 5(5)

④ 改善事例 第5学年「我が国の水産業における食料生産」

1 指導のねらい

社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって追究する力を育成する。

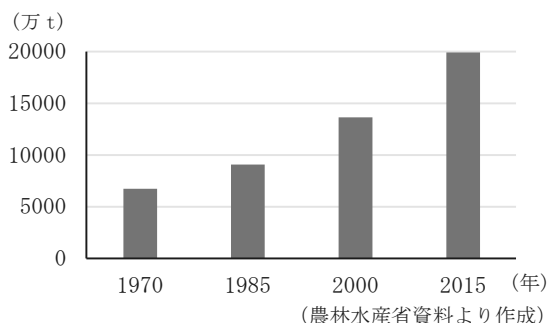
2 具体例

(1) 資料から読み取った情報を比較・関連付け、学習問題を設定する。

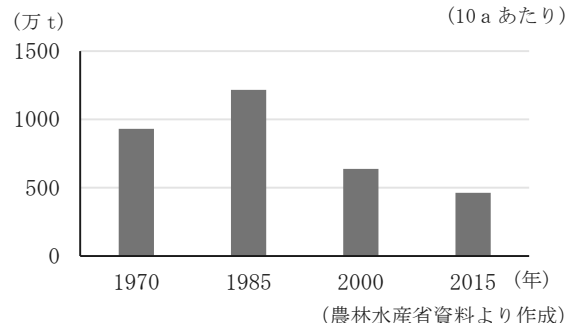
今日は、日本の水産業にはどのような課題があるかについて考えていきましょう。
次の2つの資料を見てください。



【資料1】世界の漁業・養殖業の生産量の変化



【資料2】日本の漁業・養殖業の生産量の変化



資料1と2の変化の様子に着目して、読み取ったことを発表しましょう。

ポイント1：資料（統計）を読み取る際の視点を示す。

- ・表題、出典、年代、作成者
- ・単位、目盛り
- ・量やその変化（大小、差、倍、傾き）等

資料1からは、1970年から2015年の間に、世界の漁業や養殖業の生産量が大きく増えていることが分かります。



資料2からは、1985年以降、日本の生産量がだんだん減っていることが分かります。1985年と2015年を比べると、半分以上に減っています。



そうですね。では、資料1と2から読み取ったことを見比べたり、結び（関連）付けたりして、水産業の課題について考えていきましょう。結び付けて考える時は、「～なのに～なのは、どうしてか」などの言葉を使って考えてみましょう。

ポイント2：複数の情報を比較・関連付けて、何を考えるのかを示す。

- ・比較（違い、共通点）
- ・関連付け（事象間の結び付き「～すると～」、矛盾「～なのに～」等）

比べてみると、世界も日本も1985年までは生産量が増えていたけど、日本は、1985年以降、生産量が減っているの課題だと思います。



世界の生産量が大きく増えているのに、日本の生産量が、1985年以降、だんだん減っているのは不思議です。日本では、魚をとる工夫を色々と考えていたのに、きっと何か理由があると思います。これから調べたいです。



なるほど。世界の生産量が増えているのに、日本の生産量が減っているのは、何か原因がありそうですね。では、なぜそうなっているのか、これを学習問題として考えていってもよいですか。

【学習問題】〈世界の漁業・養殖業の生産量が増えているのに、1985年以降、日本の生産量が減っているのは、なぜか〉

(2) 学習問題に対する予想を出し合い、問題解決の見通しをもつ。

日本の生産量は、1985年から減り始めているから、この頃に何かあったのかもしれない。環境が悪くなって、魚がいなくなったのかな。



農業と同じように、働く人が減少しているのかもしれない。それと、世界の生産量が増えているから、外国で何か変化があったのかな。

魚の減少、環境の変化

働く人の減少

外国の様子の変化

◆既習事項や生活経験をもとに、予想を立てさせ、調べる視点を明確にもたせる。

ア 事例1

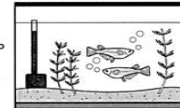
分野や領域を横断し、日常生活と個別の知識を関連付けて活用する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3 (2)	生命・地球 (地球)	結露のしくみを日常生活にあてはめて考えることができる。	・自然事象への関心・意欲・態度 ・科学的な思考・表現

③ 花子さんは、水そうの水がしぜんに減っていることにきもんをもち、その理由について調べています。あとの問いに答えましょう。

【実験】 2つのビーカーに同じ量の水を入れ、一方にラップでふたをして、よく晴れた2日間、日なたに置く。



【結果】 ①ラップでふたをしないとき ②ラップでふたをしたとき



水は減った。



水はほとんど減らず、ラップやビーカーの内側に水てきがついた。

(写真：コーベット・フォトエージェンシー)

(2) ラップやビーカーの内側に水てきがつく理由と同じ理由で起こることはどれですか。次のア～ウの中から1つ選び、その記号を書きましょう。

ア 氷を外に置くと、水になる。

イ 水をふくんだタオルを外に干すと、かわく。

ウ やかんに入れた水を加熱すると、湯気が出る。

正答例	予想される誤答例
ウ	ア, イ

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「結露のしくみを日常生活にあてはめて考えることができる」である。

ここでは、アやイの誤答が予想される。この要因として、日常生活の事象と理科の学習で得た知識を関連付けた学習活動が不十分であることが考えられる。また、学習指導要領第4学年の内容におけるB(4)天気の様子 ア(イ)の指導事項と、A(2)金属、水、空気と温度 ア(ウ)の指導事項を関連付けた学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、水は水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくことや、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあることを実験から捉えるだけでなく、適用問題を設定し、日常生活で結露が起こる場面を選ぶとともに、なぜ結露したのかを説明させ、実験したことと日常生活での事象を関連付けて表現する活動を充実させることが求められる。また、単元ごとの学びにとどまらず、分野や領域を横断して、自然界での水の状態変化と、加熱による水の状態変化を関連付けた指導を充実させることが求められる。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H29：事例2 H26：事例1 H21：事例2

(県) H29：6(3) H20：8(1)(2)

④ 改善事例 第4学年「天気の様子」・「金属・水・空気と温度」

1 指導のねらい

分野や領域を横断し、日常生活と個別の知識を関連付けて活用することができる。

2 具体例

◇それぞれの単元で身に付けさせたい内容を明確にし、児童の疑問や誤解しやすいことを予想した上で、つながりのある既習の単元の内容と関連付けた発問や問い返しを考える。

【粒子】「金属・水・空気と温度」 → 【地球】「天気の様子」の順で学習した場合		
単元で身に付けさせたい内容	児童の疑問や誤解	教師の発問・問い返し
①水は沸とうしなくても蒸発し、目に見えない水蒸気になること。 ②水は水面や地面から蒸発し、目に見えない水蒸気となって空気中に出ていくこと。 ③空気中には目に見えない水蒸気が含まれていること。 ④空気中の目に見えない水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあること。	ア. 沸とうと蒸発って何が違うのかな？ ①②③ 	・蒸発するってどんなことだったかな？ ・沸とうしていないのに蒸発するの？ ・沸とうしているときって水は蒸発しているの？
	イ. 湯気は水蒸気だね。②③ ウ. 湯気になって出ていったんだね。 ②③ エ. 減った水はどこへ行ったのかな？ ①②③	・湯気の正体は何だった？ ・やかんでお湯をわかしたとき、湯気はどこにあったかな？（見えたかな？） ・やかんでお湯を沸かしたとき、やかんの口と湯気の間には何も見えなかったよ？
	オ. ラップの内側にどうして水がつくの？ ③④ カ. ラップの内側の水ってどこの水？ ③④	・水を温めたり冷やしたりすると水のすがたは、どうなったかな？ ・沸とうして集めた水蒸気がふくろの中で水になったのはどうしてかな？

【地球】「天気の様子」 → 【粒子】「金属・水・空気と温度」の順で学習した場合		
単元で身に付けさせたい内容	児童の疑問や誤解	教師の発問・問い返し
①水を熱すると湯気や中から泡が出ること。 ②100℃近くになるとさかんに泡を出しながらわき立つことを沸とうということ。 ③沸とうした水の中から出る泡は水蒸気であること。 ④水蒸気は空気中で冷やされると目に見える小さな粒になり、その小さな水の粒を水滴ということ。 ⑤水が沸とうしているとき、水は盛んに蒸発していること。 ⑥水は温度によって水蒸気になること。	ア. ビーカーの水が自然に減ったこととお湯をわかしたときの蒸発は同じなの？ ①③⑤⑥ イ. 沸とうしたから蒸発したんだね。 ②③⑤⑥	・蒸発するってどんなことだったかな？ ・沸とうしているときだけ水は蒸発するのかな？ ・水そうやビーカーの水が自然に減ったのはどうしてだったかな？
	ウ. お湯をわかしたとき、水蒸気が出てきたのが見えたよ。 ①④	・水蒸気は目に見えましたか？ ・水そうやビーカーの水が蒸発するとどこに行くのかな？ ・空気中の水蒸気は見えるかな？
	エ. 水蒸気は目に見えないのに、湯気はどうして見えるのかな？ ④ オ. 湯気って水蒸気？ ④⑥ 	・ビーカーの水を置いておいたとき、ラップに水がついたのはどうしてだったかな？ ・沸とうして蒸発して出ていった水蒸気はどこに行ったの？ ・ビーカーの水が自然に減った量と沸とうして減った量を比べるとどうかな？

ポイント1

単元ごとに知識や技能を身に付け、さらに単元と単元のつながりを考えた指導を意識して行うことが大切です。

このような指導は、児童が身に付けた知識を繰り返し活用したり、個別の知識を関連付けて考えたりすることで、知識の質の高まりや、より科学的な概念の形成につながります。

◇適用問題で日常生活の事象と学んだことをつなげ、説明する活動を行う。

- ① 夏の暑い日に、冷たい水をコップに入れておいたら、コップの外側に水がついた。
- ② 冬の寒い日に、外からあたたかい部屋に入ったら、めがねがくもった。



①、②のように、コップに水がついたり、めがねがくもったりした理由を温度と関連付けて、「水蒸気」という言葉を使って説明しましょう。

ポイント2

学習の成果を、日常生活とのかわりの中で捉え直すことで、知識の質の高まりや理科を学習することの有用性を感じることが出来ます。



イ 事例2

実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想し、実験結果を基に分析し考察する学習活動を重視すること

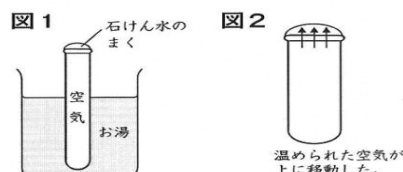
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (1)	物質・エネルギー (粒子)	実験結果から空気を熱したときの空気の変化について、より妥当な考えに改善することができる。	科学的な思考・表現

5 健太さんたちは、温度による空気の変化や金属の温まり方について調べました。
あとの問いに答えましょう。

健太さんは、試験管の口に石けん水のまくをつけ、お湯の中に入れました。

すると図1のように石けん水のまくがふくらみました。そこで、試験管の中の空気の変化を図2のように表しました。

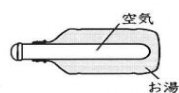


健太さんは、自分の考えが正しいかを確認するため、次のような実験を行い、結果をまとめました。

【実験1】

石けん水のまくをつけた口を横にしてあたためる。

【結果1】

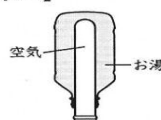


石けん水のまくがふくらむ。

【実験2】

石けん水のまくをつけた口を下にしてあたためる。

【結果2】

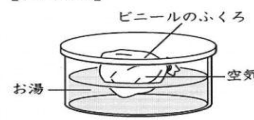


石けん水のまくがふくらむ。

【実験3】

ふくろをお湯につけてあたためる。

【結果3】

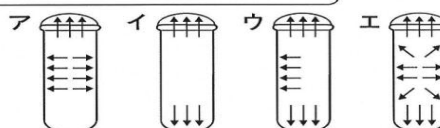


ふくろがパンパンにふくらむ。

上の実験の結果から、ぼくの考え(図2)は、ちがっていることが分かったよ。試験管をお湯の中に入れたとき、試験管の中の空気の変化を図に表すと、()になるね。



(1) 健太さんのことばの()にあてはまる図を、右のア～エの中から1つ選び、その記号を書きましょう。



正答例	予想される誤答例
エ	ア, イ, ウ

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「実験結果から空気を熱したときの空気の変化について、より妥当な考えに改善することができる」である。ここでは、実験1～3のすべての実験結果を踏まえたイメージ図を選ぶことができず、エ以外を選んでしまう誤答が考えられる。例えば、実験2の「石けん水のまくが下にふくらむ」という結果のみから、イを選んでしまうといった誤答である。

指導に当たっては、実験を構想する際に、どのような予想を確認する実験なのかを明確にし、実験結果の見通しなどを共有する場面を設定することが考えられる。また、自分の考えと異なる他者の予想に対しても結果の見通しをもち、複数の実験結果など多面的に分析し考察することが大切である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) R1 : 事例2 H28 : 事例1

(県) R1 : 2 (3) (全) H30 : 2 (2) (3) 3 (2) (3)

④ 改善事例 第4学年「物の体積と温度」

1 指導のねらい

実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想し、実験結果を基にしてより妥当な考えに改善できるようにする。

2 具体例



石けん水のまくをはって、手で試験管をにぎってあたためると、石けん水のまくがふくらみましたね。空気はあたためられると、どうなったのかな？

課題＜空気をあたためると、なぜ石けん水のまくがふくらんだのかな＞



手であたためられた空気が上に動いて、まくを押したので、ふくらんだと思う。

わたしは、空気をあたためると空気の体積が大きくなって、石けん水のまくを押したから、ふくらんだと思うよ。



一人一人にしっかり予想をもたせ、自分の立場をはっきりさせます。そして、予想を出し合うことで互いの考えの違いを把握させ、実験計画につなげます。



空気が上に動くかどうかは、試験管を横や下に向けて実験してみたらどうかな。

ビニールの袋に空気を入れてあたためてみたらどうかな。



ポイント1 自分・他者の予想や仮説を基に、実験計画を立案し、実験を行う前に、「どんな結果が得られたら何が言えるのか」といった実験結果の見通しをもたせ共有する。



自分の予想や自分とはちがう予想をそれぞれ確かめるためには、どのような実験をして、どうなるとよいか実験結果の見通しをもちましよう。

あたためられた空気が上に動くという予想が合っていれば、試験管を横や下に向けても石けん水のまくはふくらまないと思うし、ビニールの袋も上の方だけ大きくふくらむと思うよ。



ぼくは、空気をあたためると上に動くと思いましたが、体積が大きくなるとしたら、試験管を横や下に向けても石けん水のまくはふくらむし、ビニールの袋も上だけではなく、全体が大きくふくらむと思うよ。

実験



結果を黒板で整理しましょう。

実験結果の見通しを板書に残すと、実験中にも確認できます。また、実験結果から考察する際、実験結果の見通しと結果を比較しやすくなります。



それぞれの結果を基に予想の際に書いたイメージ図も修正して考察をしよう。

	【実験1】 石けん水のまくをつけた口を横にしてあたためる。	【実験2】 石けん水のまくをつけた口を下にしてあたためる。	【実験3】 ふくろをお湯につけてあたためる。
予 想	 あたためられた空気は上に行く 石けん水のまくはふくらまない。	 石けん水のまくはふくらまない。	 ビニールの袋の上だけふくらむ。
	 あたためられた空気の体積は、大きくなる 石けん水のまくはふくらむ。	 石けん水のまくはふくらむ。	 ビニールの袋の全体がふくらむ。
結 果	 石けん水のまくはふくらんだ。	 石けん水のまくはふくらんだ。	 ビニールの袋は全体的にふくらんだ。

ポイント2 実験結果の見通しと実験結果を比較し、実験の考察を行う。

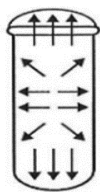


わたしは空気の体積が大きくなると思っていたから、予想どおりの結果だった。袋がパンパンにふくらんだし、石けん水のまくも横や下にもふくらんだから、空気の体積が大きくなったといえるね。

ぼくは、空気をあたためると上に動くと思いましたが、石けん水のまくは、横や下にはふくらまないと思ったけど、横にも下にもふくらんだし、ビニールの袋も全体的にふくらんだから空気はあたためられると上に行くのではなく、体積が大きくなることがわかった。



空気はあたためられると移動するのではなく、体積が大きくなるということだから、前後左右だけではなく、いろいろな方向に矢印を書かなければいけないね。



考 察

横や下に向けた石けん水のまくがふくらんだことや、ビニール袋全体がふくらんだことから、空気はあたためられると体積が大きくなると考えられる。

※児童が表現するイメージ図は、矢印や○、擬人化など様々なものが考えられますが、図のみではなく、必ず説明する文（一文程度でも可）を書くよう指導することで、思考の可視化につなげましょう。

中学校 第3学年
「社会」「理科」「英語」

ア 事例1

地理的事象について、その場所の地域的特色等に着目して多面的・多角的に考察し、表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4(4)②	地理的分野	資料を基に、近畿地方で歴史的建造物が多い理由について、考察し表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・社会的事象についての知識・理解

- 4(4)② 近畿地方の7府県には、全国の国宝・重要文化財〔建造物〕の約45%が存在する。他の地方に比べ、国宝・重要文化財の指定件数が多い理由を「古代から中世」という語句を使って書きなさい。

〔資料2〕

項目 府県	面積 (km ²) 2018年	人口 (千人) 2018年	農業産出額 (億円) 2017年	海面漁業産 出額(億円) 2017年	製造品出荷 額等(億円) 2017年	国宝・重要文化財 指定件数〔建造物〕 (件) 2019年
A	4,612	2,591	737	38	58,219	351
B	3,691	1,339	430	—	21,181	328
滋賀	4,017	1,412	647	—	78,229	208
兵庫	8,401	5,484	1,634	499	157,988	120
C	1,905	8,813	357	44	173,490	105
和歌山	4,725	935	1,225	134	26,913	91
D	5,774	1,791	1,122	507	105,552	27

(「データで見る県勢」より作成)

〔資料3〕

平等院鳳凰堂

〔資料4〕

鹿苑寺舍利殿
(金閣)

正答例	予想される誤答例
近畿地方は、古代から中世にかけて都が建設されるなど、かつて政治・文化の中心地であったから。	・近畿地方は、古代から中世にかけて天皇が住んでいたから。 ・近畿地方は、古代から中世にかけて幕府があったから。

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「資料を基に、近畿地方で歴史的建造物が多い理由について、考察し表現することができる」である。

ここでは、「近畿地方は、古代から中世にかけて天皇が住んでいたから」、「近畿地方は、古代から中世にかけて幕府があったから」等の誤答が予想される。この要因として、近畿地方における歴史的背景を基に、近畿地方が他の地方に比べ、国宝・重要文化財に指定されている歴史的建造物が多いという地理的事象について、多面的・多角的に考察し表現する力が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、単なる歴史的分野の学習とならないように、地域を特色付ける文化等が形成された歴史的背景に関する特色ある事柄に着目させ、そのことがこの地域的特色にどのように関連するのか、地理的事象が成立した地理的条件と歴史的条件との関わりなどを踏まえて考察し表現することが必要である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県)R1：事例1

(県)R1：1(4)②

④ 改善事例 第1学年 第2学年「日本の様々な地域」

1 指導のねらい

地理的事象について、その場所の地域的特色等に着目して多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。

2 具体例



教師

新学習指導要領、第3章の指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、(2)「小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、・・・」とありますが、具体的にはどのようなことなのでしょう。

例えば、地理的分野においては、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるだけでなく、学習する内容によっては、並行して学習している歴史的分野における社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることも考えられます。各分野の結び付きにより社会的事象全体の関連を生かすところに社会科の学習の意味があります。具体的な指導について、「日本の様々な地域」における「近畿地方」を例に教材研究してみましょう。



ベラン先生



ベラン先生

生徒は、資料1からどんなことを読み取るといいますか。それを踏まえてどのような学習課題の設定を想定しますか。

資料1

京都や奈良を訪れる外国人観光客数の変化のグラフ



教師

生徒は、資料1から外国人観光客が年々増加していることを読み取るといいます。なぜ、多くの外国人観光客が京都や奈良を訪れるのだろうというのでしょうか。

資料2

国宝・重要文化財〔建造物〕の都道府県別指定件数



ベラン先生

京都や奈良に共通する地域的特色等を捉えるために、例えば資料2や資料3を提示すると、生徒はどんなことを考察するといいますか。

資料3

東大寺、平等院鳳凰堂、鹿苑寺舍利殿（金閣）等の写真



教師

資料2では、他の都道府県と比較し、京都や奈良は国宝・重要文化財の指定件数が多いことを読み取らせませう。資料3では、歴史的分野の学びを引き出します。それらを基に歴史的背景について多面的・多角的に考察し表現させませう。その際、何に心がければよいのでしょうか。



ベラン先生

まず、資料3から歴史的分野での学びを引き出す意図的な発問が必要です。
〈例〉建造物を建てた人物、時期、場所、背景などや、その地域での人々の生活や文化に関するもの

そして、資料2と資料3から読み取ったことをどう関連付けたり、総合させたりするのか、着目する視点を明確にして、考察させませう。

- ◆位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域の視点
- ◆時期、年代など時系列に関わる視点や類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点、背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関する視点



教師

着目する視点を明確にすることで、何について考えるか整理され、まとめることができますね。



ベラン先生

現在の京都や奈良に外国人観光客が多く訪問する要因を、単に「歴史的な建造物などが多い」とまとめるだけでなく、考察させたいことが現在の地域的特色を捉えることに主眼があることを踏まえる必要があります。追加資料を提示して、景観や町並みを保つ努力や工夫などから、現在の京都や奈良の地域的特色がどのように形成されたのか、地理的条件と歴史的条件との関わりなどを踏まえて考察し表現させませう。

◆着目させる視点：比較

追加資料1

同じ場所の今（電柱なし）と昔（電柱あり）の写真

追加資料2

自分が住む地域の店舗と京都・奈良の店舗の写真（外観）

イ 事例2

歴史に関わる事象の意味や意義を、世界の歴史との関連に着目して多面的・多角的に考察する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5 (4)	歴史的分野	資料を基に、立憲制国家の成立について、考察し表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・資料活用の技能

5 (4) 明治政府の諸改革は、その後の日本にとって大きな意義のあるものであった。右の年表をもとに、明治政府の諸改革の意義を、当時のヨーロッパ諸国のように踏まえて、「近代化」という語句を使って書きなさい。

〔年表〕

年（世紀）	東南アジアのおもなできごと
(18世紀後半～)	イギリスで産業革命が始まる
1858年	イギリスがインドの直接支配を始める
1871年	日清修好条規を結ぶ（清と対等な内容）
1874年	フランスがベトナムを侵略
1875年	樺太・千島交換条約
1876年	日朝修好条規（朝鮮にとって不平等な内容）

正答例	予想される誤答例
ヨーロッパ諸国がアジアに進出していることに危機感を持った明治政府が、国の近代化を目指したことで、ヨーロッパ諸国に対抗する力を持つことができた。（アジアで強い影響力を持つことができた。）	・アジア諸国に進出してきたヨーロッパ諸国のように、近代的な国にすることができた。 ・ヨーロッパ諸国から技術などを取り入れることで、国の近代化に成功した。

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「資料を基に、立憲制国家の成立について、考察し表現することができる」である。

ここでは、「アジア諸国に進出してきたヨーロッパ諸国のように、近代的な国にすることができた」「ヨーロッパ諸国から技術などを取り入れることで、国の近代化に成功した」等の誤答が予想される。この要因としては、産業革命によってヨーロッパ諸国がアジアに進出し、アジア諸国の植民地支配を広めたという世界の歴史的事象と、明治政府による諸改革との関連に着目し、明治政府による諸改革の意味や意義について考察し表現できるようにするための指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、日本の歴史的事象の背景にある世界の歴史的事象に関する資料を意図的に提示したり、日本の歴史的事象と世界の歴史的事象のつながりに気付かせるための発問を工夫したりすることで、日本の歴史的事象の意味や意義について、主体的に問いを持たせ、世界の歴史的事象を背景に考察し表現できるようにすることが重要である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

（県）R1：事例2

（県）R1：5 (3)③ H28：5 (5)

④ 改善事例 第1学年「近世の日本」

1 指導のねらい

歴史に関わる事象の意味や意義を、世界の歴史との関連に着目して多面的・多角的に考察する力を育成する。

2 具体例

(1) 既習や複数の資料から見いだした問いを基に本時の学習課題を共有する学習活動



「南蛮貿易」の様子から、どんな「問い」が考えられますか。

【資料1】南蛮人来航の様子



小学校で「ザビエル」が日本でキリスト教を広めたことを勉強したけど、ヨーロッパで起きた宗教改革と関係があるのかな。

「南蛮人渡来図屏風」の
拡大図



ヨーロッパ人によって鉄砲やキリスト教が日本に伝えられたことで、日本では何がどのように変わり始めたのだろう。

【資料2】南蛮人がもたらしたもの

「南蛮人がもたらした
地球儀や時計の写真」

**学習課題：ヨーロッパ人の日本進出によって、日本はどのように
変わり始めたのだろうか**

ポイント1：当時の日本人とヨーロッパ人の生活様式の違いや、南蛮貿易の様子に関する複数の資料を提示し、生徒に問いをもたせ、それらを基に学習課題を設定する。

<例>日本人とヨーロッパ人の生活様式が比較できる絵図、南蛮貿易の輸入品の写真 等

(2) 追加の資料を読み取り、関連付けながら多面的に考察する学習活動



なぜヨーロッパ人は日本やアジアと交流できるようになったのだろう。またその目的は何だったのかな。

【追加資料3】



新航路の発見で、ヨーロッパ人は船でアジアに来られるようになった。だから南蛮貿易ができるようになったんだね。

新航路の世界地図



貿易だけではなくて、キリスト教の布教もできるようになったよ。

【追加資料4】



ザビエルが日本でキリスト教を布教できたのは、新航路の発見だけではなく、宗教改革も関連していたんだね。

新航路発見や宗教改革、
鉄砲伝来の複合年表

ポイント2：ヨーロッパ人の日本進出の背景に関する追加資料を提示し、その関連に着目し考察できるよう発問する。

<例> キーワード（新航路の発見、宗教改革、南蛮貿易）につながるように、問い返しの発問で、明示した資料の、どこに、何に、着目するのか気付かせる。

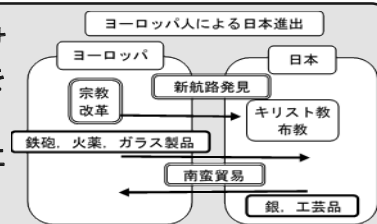
(3) 複数の視点を関連付け、学習課題についてまとめ表現する学習活動



ヨーロッパ人の日本進出には、新航路の発見、宗教改革、南蛮貿易が関連しているようですね。ヨーロッパ人の日本進出が、この後の日本や日本人にどのような影響を与えたと考えられますか。

ポイント3：日本の歴史的事象と世界の歴史的事象を関連付けながら、日本の歴史に関わる事象の意味や意義を表現できるようにする。

<例> 関連させた日本と世界の歴史のつながりを構造的にまとめさせる。



【まとめ】ヨーロッパでの新航路の発見や宗教改革によって、ヨーロッパ人は、南蛮貿易による利益や、キリスト教の布教を目的に日本に進出した。日本では、鉄砲という新しい武器が伝えられたことで、戦い方が変化し、築城技術が向上した。また、大名や民衆の間でキリスト教の信仰が急激に広まりだした。

単元（中項目）の学習課題を設定し、1単位時間の学習を積み重ねることで、日本の歴史的事象の意味や意義について考察し表現できるようにすることが大切です。



ア 事例1

観察や実験の条件を踏まえて、結果を分析して解釈する学習活動を充実すること

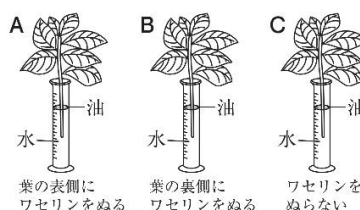
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1 (3)	第2分野 生物的分野	実験操作と実験結果を基に、葉の裏からの蒸散量を求めることができる。	科学的な思考・表現

1 太郎さんは、植物の蒸散について調べるために、次のような実験を行いました。あとの問いに答えなさい。

【実験】

- ① 同じように葉がついたホウセンカの枝を3本用意した。葉の表側だけにワセリンをぬったものをA、葉の裏側だけにワセリンをぬったものをB、ワセリンをぬらなかったものをCとした。



- ② 水を入れたメスシリンダーにA～Cをさし、水面に油をたらした。その後、風通しの良い場所に4時間置き、水の減少量を調べた。

【結果】

	A (表にワセリン)	B (裏にワセリン)	C (ワセリンなし)
水の減少量 (cm ³)	2.4	1.6	3.5

(3) 葉の裏側だけからの蒸散量は何cm³と考えられるか、【結果】をもとに求めなさい。

正答例	予想される誤答例
1.9 (cm ³)	2.4 (cm ³)

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「実験操作と実験結果を基に、葉の裏からの蒸散量を求めることができる」である。予想される誤答例の2.4 (cm³) は、A「葉の表側だけにワセリンをぬったもの」の水の減少量を「葉の裏側だけからの蒸散量」と捉えたと考えられる。この要因として、Cの条件を準備する意図を話し合う活動や、実験結果を分析して解釈する活動が不足していると考えられる。

指導に当たっては、実験計画を立てる際に「条件制御」の考え方を活用し、得られた結果をどのように分析・解釈できるのかを考えてから実験に取り組む過程を重視していくことが必要である。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) R1 : 事例1 (国) H27 : TYPEⅢ 6 (2) (県) R1 : 1 (2) H29 : 5 (3) (国) H30 : 2 (3)

④ 改善事例 第1学年「植物の体のつくりと働き」(R3年度より第2学年で学習)

1 指導のねらい

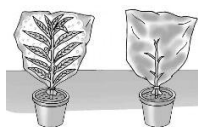
観察・実験の計画を構想し、実験方法の条件を踏まえて結果を分析・解釈する力を育成する。

2 具体例

(1) 既習事項を基に課題を設定する。



葉の表側、葉の裏側の蒸散量には差があるのかな。茎からの蒸散も含めて、それぞれどれくらいの蒸散量なのか、調べることができるかな？



小学校6年
「植物の養分と水の通り道」

葉をとり、茎だけにして袋をかぶせても、袋の中に水滴がついたから、茎からも蒸散しているよ。



課題 <植物は、場所によって蒸散量はちがうのだろうか>

(2) 自分の予想をもち、実験方法を考えて交流する。

葉の裏側の方が気孔が多かったから、表側より裏側からの方が多く蒸散するよ。

葉の表と裏にも気孔があるから、葉の表側と裏側からの蒸散量は同じじゃないかな。

葉の表側・裏側、茎それぞれの蒸散量を調べるにはどうしたらよいかな？

蒸散をさかんに行うと、吸水の量も多くなるはず。吸水の量で比べられる。こんなふうに植物に吸水させて、メスシリンダーの減った水の量で調べてみよう。

これだと植物全体でどれだけ蒸散したか分かるね。でも、葉の片側や茎だけ蒸散させるにはどうしたらいいのかな？

ワセリンをぬると気孔をふさいで蒸散を防ぐことができますよ。

Bだと葉の表側からは蒸散せず、葉の裏側の蒸散量が分かり、Cだと葉の裏側からは蒸散せず、葉の表側の蒸散量が分かるよね。

茎だけの蒸散量も知りたいから、Dの葉の表・裏どちらにもワセリンをぬれば、分かるよね。

ワセリンをぬっていないから、植物全体の蒸散量だよ。

葉の表側と裏側と茎からの蒸散量だよ。

なるほど。Bだと葉の表側からは蒸散せず、葉の裏側と茎からの蒸散量が分かり、Cだと葉の裏側からは蒸散せず、葉の表側と茎からの蒸散量が分かるんだ。

ワセリンをぬらないAからは、どこの蒸散量が分かるのかな？

植物全体ってどこの場所？

あっ、ということは……。Aが葉の表側、裏側と茎からの蒸散量なんだから、BやCにも茎からの蒸散量も含まれているね。

A なにもぬらない B 葉の表にワセリン C 葉の裏にワセリン D 葉の表と裏にワセリン

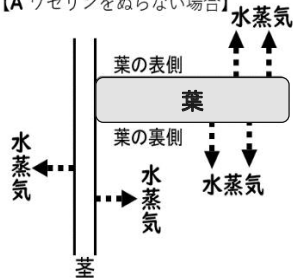
(3) 実験を実施し、得られた結果について話し合う。

【ポイント】

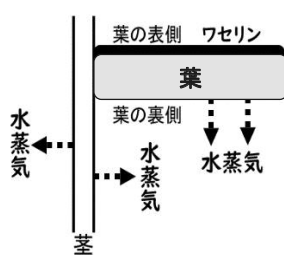
板書では、話し合いの内容と合わせて、結果の数値のみではなく言葉や図などにより可視化することで、実験の条件を踏まえて、数値と蒸散した場所について確認できるようにします。

	A(ワセリンなし)	B(表にワセリン)	C(裏にワセリン)	D(表と裏にワセリン)
水の減少量(cm ³)	3.5	2.4	1.6	0.5
蒸散した場所	葉の表側と裏側+茎	葉の裏側+茎	葉の表側+茎	茎

【A ワセリンをぬらない場合】



【B 葉の表側にワセリンをぬった場合】



<葉の表側からの蒸散量>

$$C(表+茎) - D(茎) = 1.6 - 0.5 = 1.1 \text{ (cm}^3\text{)}$$

<葉の裏側からの蒸散量>

$$B(裏+茎) - D(茎) = 2.4 - 0.5 = 1.9 \text{ (cm}^3\text{)}$$

表側: 1.1 (cm³) 裏側: 1.9 (cm³) 茎: 0.5 (cm³)

だね。葉の表側 1.1 (cm³), 裏側 1.9 (cm³), 茎 0.5 (cm³) の合計と A の蒸散量も同じだから正しいね。

植物は、場所によって蒸散量はちがうね。B, C, Dの結果から、蒸散量は、葉の裏側からが一番多く、次に葉の表側、そして茎という順番ということが分かったね。

イ 事例2

目的に応じて情報を整理した上で、論理的に思考し、課題を解決する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7 (3)	第1分野 化学的領域	疑問を解決するための実験方法を構想することができる。	・科学的な思考・表現 ・観察・実験の技能

7 太郎さんたちは、食塩・砂糖・デンプン・クエン酸の4種類の物質の性質を調べるために実験を行い、結果をもとに物質の性質について考えました。あとの問いに答えなさい。

太郎さんたちの実験結果

物質	食塩	砂糖	デンプン	クエン酸
① 水へのとけ方	とけた	とけた	とけない	とけた
② リトマス紙の変化 (水溶液の性質)	変化なし	変化なし	変化なし	青色から赤色に変化した
③ 加熱時の変化	変化なし	こげて炭ができた	こげて炭ができた	とけて液体になった

太郎さんたちは、白い粉末の食塩・砂糖・デンプン・クエン酸を、**太郎さんたちの実験結果**をもとに、できるだけ少ない実験回数で効率的に見分ける方法を考えました。

(3) 下の図は、太郎さんたちが2回の実験で4つの物質を見分ける方法を表したものである。

【実験1】、**【実験2】**にあてはまる実験方法を、次のア～ウからそれぞれ選びなさい。

ア 水へのとけ方
イ リトマス紙の変化
ウ 加熱時の変化

【見分ける物質】

食塩 砂糖 デンプン クエン酸

【実験1】

物質X 物質Y 物質Z

【実験2】

物質W 物質X 物質Y 物質Z

正答例	予想される誤答例
【実験1】ア 【実験2】ウ	【実験1】イ 【実験2】ウ

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「疑問を解決するための実験方法を構想することができる」である。予想される誤答例のイ・ウは、実験1、2を順序立てて論理的に考えるのではなく、図を基に実験1、2においてそれぞれ、何種類に分けているかという情報と実験結果のみを関連付けて判断してしまうことが考えられる。その要因として、身の回りの物質の性質を調べる実験を通して、物質の性質は十分学習していても、物質の性質をもとに分類していくという視点での活動が不足していると考えられる。

指導に当たっては、物質の性質についての知識の獲得だけでなく、獲得した知識を活用する場面を設定する。具体的には、物質の固有の性質と共通の性質に着目し、「できるだけ少ない実験回数」という条件に応じて論理的に思考し、課題を解決することが大切である。また、本事例の学びは、化学的領域だけでなく、他の領域でも共通点や相違点を基に話し合いを通して分類する学習活動として活用できる。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(国) H27 : 1 (5) (県) H26 : 8 (2)

④ 改善事例 第1学年「身の回りの物質」

1 指導のねらい 課題解決のために必要な情報を整理し、論理的に思考する力を育成する。

2 具体例 見た目では分からない砂糖、食塩、デンプン、クエン酸の白い粉末をそれぞれカップに入れる。入っている物質が何かをこれまでの知識を活用して調べる。

課題 <白い粉末の物質を見分けるには、どのような方法があるか>

(1) 課題を解決するために、知識をどのように活用し、情報を整理するか考える。

 前回、このような実験を行い、4種類の物質の性質を表に整理しましたね。
(ろ過や加熱等の実験方法を確認できるように可視化しておく。)

実験方法 \ 物質	砂糖	食塩	デンプン	クエン酸
A 水への溶け方	とけた	とけた	とけない	とけた
B リトマス紙	変化なし	変化なし	変化なし	青→赤
C 色・見た目	白い粉末	白い粉末	白い粉末	白い粉末
D 加熱	こげて炭ができた	変化なし	こげて炭ができた	とけて液体になった
E ヨウ素液	変化なし	変化なし	青紫色	変化なし



上の表から、それぞれの物質には様々な性質があるね。(実線枠のように縦で見る) A～Dそれぞれの実験結果の違いで見ると、物質の固有の性質や共通の性質があることが分かるね。(点線枠のように横で見る)

【ポイント1】

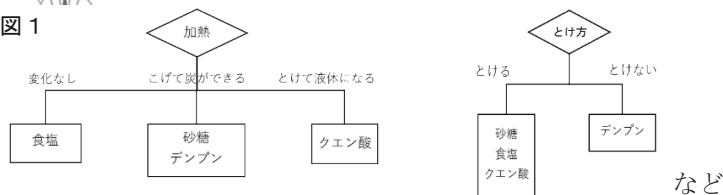
- 実験方法を考えるための視点をもたせる。
- ・物質の固有の性質と共通の性質に着目する。
- ・実験の回数に着目する。

(2) 個人で物質を見分けるための実験方法を考える。



それぞれの実験と結果を樹形図に表し、それらを組み合わせて考えてみましょう。(図1)

図1



【ポイント2】

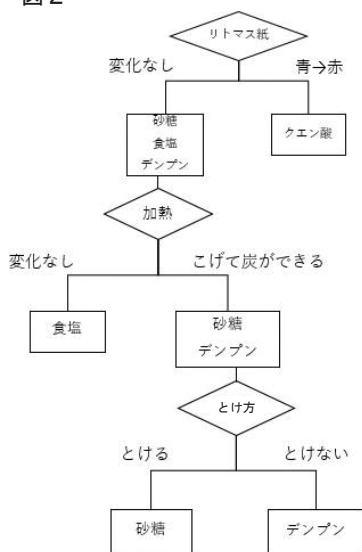
- 思考過程を可視化させる。
- ・実験方法と結果を樹形図に表す。
- ・ICTやカード等を活用して試行錯誤する。

(3) 互いの考えを検討する。

1回目にリトマス紙を使い、まず酸性のクエン酸を見分けます。2回目は加熱し、食塩と、砂糖・デンプンを見分けます。3回目にとけ方を調べれば、砂糖とデンプンを見分けられるかな。(図2)



図2



S1: 図2の方法だと4つの物質を見分けることができるね。

でも実験が3回必要になるね。2回にできないかな。

S2: 実験の回数を2回にするなら、2回目は砂糖、食塩、デンプンがちがう結果になる実験が必要だけど……、ないね。

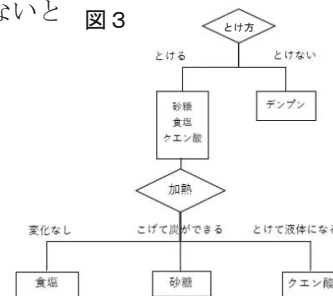
S1: そうすると、砂糖、食塩、デンプンを1回で見分ける実験はないから、1回目の「リトマス紙」の実験を変えないと いけないね。 図3

S2: 1回目で見分けられなかった物質を、2回目のときにちがう結果になるような実験を考えればいいんだね。

S3: 1回目に「とけ方」を調べて、2回目、砂糖、食塩、クエン酸を「加熱」で見分ければ、2回ですむよ。(図3)

S1: 1回目に「ヨウ素液」で調べても、「とけ方」と同じような結果になるから、2回目は加熱で見分けられるね。

S3: 「加熱」を1回目にしても同じように分けられるのかな?



みんなが考えた、少ない方法で物質を見分ける時のポイントを見つけましょう。

【ポイント3】

- 自分や友達の考えを批判的に捉え、妥当な方法に修正させる。
- 物質の共通点や相違点に着目して実験方法を振り返り、解決の方向性を構想させる。

1回目に分けられなかった物質を2回目に分ける方法があるか樹形図で見直し、1回目の方法を決めるといいです。



加熱のように細かく分ける実験を使うと少ない方法で分けられます。



物質の固有の性質に着目すれば、少ない方法で見分けることができます。

《事例2と関連する学習内容》

中1「いろいろな生物とその共通点」、「大地の成り立ちと変化」

※上記のように、共通点や相違点に着目して分類をする活動は、論理的に思考する力を育むことにつながります。

ア 事例1

言語材料の確実な定着に向けて、「言語活動→指導」の指導過程を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6	書くこと	語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて、正しい語順で英文を書くことができる。	・外国語表現の能力 ・言語や文化についての知識・理解

6 次の(1)～(3)の対話文が完成するように、それぞれ[]内の語句を正しく並べかえなさい。
ただし、文頭にくるものも小文字になっています。

(1) A : A new student came to our school.

B : I know. His name is Yutaro. [call / him / I / Yu].

(2) A : I'm going to buy a T-shirt for my mother.

B : [color / she / does / what] like the best?

A : She likes green, so I'll look for a green one.

(3) A : I want to go to Kyoto next spring.

B : Nice. Do you know I'm from Kyoto?

A : Oh, really? Could you tell me some [to / good / visit / places]?

B : Sure.

正答例	予想される誤答例
(1)[I call him Yu].	(1)[I call Yu him].
(2)[What color does she] like the best?	(2)[What does she color] like the best?
(3)Could you tell me some [good places to visit]?	(3)Could you tell me some [places to visit good]?

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて、正しい語順で英文を書くことができる」である。

ここでは、上記のような誤答が予想される。これらの要因として、指導が教師による文法事項の概念的な説明に偏ってしまい、実際の活用の主眼を置いた指導が不足していることが考えられる。

指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上で、その知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気づきを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付ける必要がある。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H29 : 事例1

(県) H30 : 6 H29 : 6

④ 改善事例 第2学年 call + A + B 「AをBと呼ぶ」

1 指導のねらい

「言語活動→指導」の指導過程を通して、生徒に言語材料の意味や使い方などへの気づきを促し、使うことによって定着を図る。

指導のポイント

2 具体例（言語面の指導に重点を置いた授業）

【導入】

【導入】当該言語材料が使用される自然な場面の設定

…ALTからのメッセージビデオ…

・当該言語材料を明示せず、場面設定を工夫することで、その必要性を実感させる。

Hi, everyone. I'm Michael. My name comes from a famous actor in America. You can call me Mike. Well, Japanese family name is difficult to say for me, so I want to call you by a simple name like Mike. What can I call you? I learn *hiragana* and *kanji*, so please tell me the meaning of your name, too. It will be interesting and useful for me. I hope I can get your answer.

・・・視聴後・・・



What does he want to know?

Close! He said, "What can I call you?"

(何人かの生徒を例に出す。)



I call him Taku-san. I call her Yui-san.
What do you call him?

Yes! He wants to know what he can call you.
And he wants to know...?

(この後、ALT が名前の意味などについても知りたがっていることを確認する。)

Name?



呼び方だ!



指導のポイント

【導入】視聴後

- ・やり取りを通してメッセージの内容を確認する。
- ・当該言語材料を繰り返し使用することで、生徒がその意味や使い方に気付くようにする。

【言語活動(1回目)】ペアでの活動



My name is Kenichi. You can call Ken.

My name is Sachie. Call Sachi.



【指導(1回目)】教師と生徒のやり取り ※複数の生徒と繰り返す



My name is Kenichi. You can call Ken.

You can call Ken? Or you can call me Ken?

You can call me Ken.



(呼び名以外で発話させたい事柄にも意識が向くように発問する。)



What does your name mean? / Who gave you your name?

My name means "幸せ"...?



【言語活動(2回目)】ペアでの活動 ※ペアを替えて繰り返す

My name is Sachie. It means "happy."
You can call Sachi.

"call me Sachi"だよ!

Oh, I see. You can call me Sachi.



My name is Kenichi. It means "health"...?
My father gave me this name. You can call me Ken.

【指導(2回目)】教師のモデル

(「優人」と書いた紙を提示しながら)

My name is Yuto. It means "kind person." My family gave me this name. I like my name. You can call me Yu.

【言語活動(3回目)】ペアでの活動 → 発表



My name is Kenichi. It means "health."
My father gave me this name. You can call me Ken.

【まとめ】口頭で伝えた英文を書く

【まとめ】

- ・生徒が書いた英文から誤りを把握し、指導に生かす。

指導した言語材料を正しく使用することができるようにするためには、ある程度時間が必要で
す。単元終末の言語活動で既習表現も併せて使用したり、当該単元以降においても、言語材料
の使用を明示しない状況で、活用させたりすることが大切です。



イ 事例2

自分の考えを示すことができるよう、主体的に内容を読み取る指導を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
10 (3)	読むこと	書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。	外国語理解の能力

10 (3) あなたは意見文を読んで、次のような感想を書きました。意見文の内容を踏まえ、We need to に続けて _____ に入る 5 語以上 10 語以内の英語を書きなさい。なお、意見文中の英語を使用しても構いません。

正答例	予想される誤答例
(We need to) ・ spend a lot of time together and talk a lot ・ give our advice to each other ・ try to understand other cultures ・ learn different ideas from each other ・ talk a lot with different people to understand each other	・ did their best to be “One Team” ・ understand Japanese culture

② 指導法改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」である。

ここでは、意見文の内容理解が不十分なための誤答や、内容は理解しているが書き手の意見などを主体的に捉えることができないための誤答、あるいは伝えたい内容を表現するために必要な語彙や文法事項等が定着していないための誤答などが予想される。これらの要因として、まとまった量の英文を読むための機会が不足していることや、書かれた内容を理解するだけでなく、読み取った内容を基に自分の考えを話したり書いたりして表現するなどの領域間の統合的な言語活動が十分行われていないことが考えられる。

指導に当たっては、読む目的に応じた読み方の指導の充実と、読み取った内容を基に、自分の体験や考えなどと結び付けながら、発信することができるよう活動を工夫する必要がある。

③ 参考となる他の指導事例及び調査問題

(県) H30 : 事例2

(全) R1 : 8

④ 改善事例 第2学年 NEW HORIZON2 Unit7 The Movie *Dolphin Tale* (東京書籍)

1 指導のねらい

読み取った内容を基に、自分の考えを伝え合うために、概要や要点を捉える力を高める。

2 具体例

「授業に入る前に」

教科書本文全体に込められたテーマを見出し、単元を通して何について考えさせたいのかを明確にする。

↓

単元のテーマ: What is important for us to live with wild animals?

「Read and Think」では、2パートを通して読み、物語の登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじを理解できるようにしよう。

「単元末には、別の英文を読んで、本文の表現を引用したりしながら自分の考えを伝えられるようにしよう。」

単元全体を通して考えさせたいテーマを生徒と共有しましょう。

読む目的	テキストタイプ
必要な情報	広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール等
概要	時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等
要点	社会的な話題に関する説明文、意見文、手紙、電子メール等

Stage 1 (6/8 時) : 咲がまとめた物語のあらすじ(2パート)を読んで、概要を捉える。

※本単元を8時間で指導すると想定した場合



読み方の指導の工夫

→読む目的を確認し、テキストタイプに応じた読み方を指導する。
 <<概要を捉えさせるための展開例>>

◇設定した理解タスク⇒

- ・順序を付ける(イラストをストーリー順に並べる)
- ・Q and A

- ①教師が簡単に oral introduction を行う。
- ②生徒が自分で英文を黙読し、イラストをストーリー順に並べる。
- ③読み取りのポイントに沿ってペアで質問し合う。
- ④イラストを見ながら、教師と生徒でやり取りをして、全体で概要を確認する。



In this picture, why does Sawyer visit the aquarium?

OK. He visits the aquarium to see ...?



Good! Then, which picture comes next?

Sawyer visits the aquarium to see her.

To see Winter, a dolphin.



指導のポイント

④では、以下の点に留意してやり取りを行い、内容を確認する。

- ・生徒の発言を **recast** する
 - ・すべてを言わず **間を置く**
 - ・発言に応じて、**指示語などの内容も明確にする**
- その際、生徒が思考し、改善点に気付くようにする。

Stage 2 (7/8 時) : 読んだ内容について、感想を伝え合う。



発問の工夫

→読み取った内容を基に、自分の経験や考えと結び付けながら、自分の考えを発信できるようにする。



What do you think of this story? Why? Tell me your idea.



I want to see this movie. I am glad because Winter can swim as well as other dolphins.

I see. I think so, too. Anyone else?



Do you think people can build a bond with animals? Why?

Yes, I do. In this story, Winter becomes his ... Sawyer's best friend. I have a dog, and I think he is a member of my family. I feel happy when I play with him. So I think we can build a bond with animals.



OK. You are as kind as Sawyer, but how about animals in the wild? They are not pets, right? How can we live with wild animals?

Animals in the wild? Well, do we have to live with wild animals...?



板書例

What do you think of this story? Why? Wednesday February 10th

Sawyer: a boy
Winter: a dolphin

Q: Do you think people can build a bond with animals?
A: I think I don't think

Your own idea
I feel happy when I play with my dog.
Sawyer and Winter become friends because they spend time together.
Animals can understand our feeling without words.

感想
I was moved
I'm glad / happy
because winter can swim as well as others
→ 動物も人間と同じ
言葉でなく

「読むこと」の指導であることを考慮し、考えなどを伝える際には、

- ・本文中の表現を引用させる
- ・必要に応じて教師のモデルを聞かせる
- ・話すためのひな形を与えるなど、手立てを講じる。

教師と生徒(見取りを基に、意図的指名)で、やり取りを行い、よい内容や表現を全体で共有できるようにする。

生徒の発言を受けて、生徒の思考を深め、さらに次時につなげるため、教師は意図的に問いを投げかける。

自分の考えを伝え合うための手立てとして、生徒から引き出したキーワードや表現を板書に残す。

Stage 3 (8/8 時) : 単元全体のテーマ(題材)「人と動物との共生」と関連した別の英文を読んで、自分の考えなどを伝え合う。

(写真やスライドなどを参考に提示し、単元全体のテーマに意識を向けさせる)

例: In the sea, plastic garbage will be heavier than all the fish in 2050. Can you guess why?

In Thailand, more than 80 plastic bags were found in the stomach of a whale. Why? Sea animals eat plastic tips because there are so many in the sea. (中略)...What can we do about this problem? What is important for us to save the animals in the sea?

社会的な話題に関する題材につなげたり、教科等横断的な視点で思考を深めたりできるように指導を工夫する。

□ 本単元とSDGsとの関連

- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

深い学び

単元を通して学習した読み方で別の英文を読み、概要や要点を確認した後、ペアの相手を複数回替えながら交流し、単元のテーマについて、自分の考えを深める。

Ⅱ スマートスクールネット「いしかわ 学力向上プログラム」の活用に向けて

1 スマートスクールネット

(1) スマートスクールネットとは

スマートスクールネットは、石川県内の学校に教育情報を提供し、交流を支援するためのWebサイトです。

サイトURL:<http://cms2.ishikawa-c.ed.jp/>

(2) スマートスクールネットを利用するには

スマートスクールネットの閲覧やスマートスクールネットに教育情報を投稿するときは、ログインIDとパスワードが必要です。

ログイン

ログインID*

ログインIDを入力してください。

パスワード*

パスワードを入力してください。

ログイン

① IDを入力

② パスワードを入力

③ クリック

2 いしかわ学力向上プログラム

(1) いしかわ学力向上プログラムを利用するには

スマートスクールネット トップページ



スマートスクールネット

ログインページ / トップページ

トップページ

県教委 -

いしかわ学力向上プログラム -

投稿・お知らせ -

オンライン研修 -

ヘルプ

クリックすると、いしかわ学力向上プログラムの閲覧ができます。

スマートスクールネットは、石川県内の学校に教育情報を提供し、交流を支援するためのWebサイトです。



●各課・事務所・センター
〈指導資料を利用する〉
教育委員会が提供する指導資料等を利用することができます。



●指導案・実践事例
〈教材を検索して利用する〉
教育委員会でとりまとめた学習指導案や教材を検索して利用することができます。



●若手教員早期育成プロジェクト
〈若プロについて知る〉
若手教員早期育成プロジェクトに関する情報や資料を見ることができます。



●教員総合研修センター様式
〈様式等をダウンロードする〉
研修センターの研修に関する様式等をダウンロードすることができます。



●お知らせ
〈電子掲示板で交流する〉
地域や校種を超えて、様々な情報を交流することができます。



●自作教材投稿
〈教職員間で教材を共有する〉
授業づくりのアイデアや自作の教材等を共有し、活用することができます。



●リンクの投稿
〈便利なリンクを共有する〉
授業や校務に役立つWebサイトの情報を共有することができます。



●オンライン研修
〈動画を視聴すること〉
オンデマンド配信・ライブ配信による研修講座や自主研修等で活用できる動画を視聴すること

(本書では、下記省略)

(2) いしかわ学力向上プログラムについて



いしかわ学力向上プログラム

◆「いしかわ学力向上プログラム」について

県教育委員会では、各学校における指導法の改善を進めるために、その中長期的指針である「いしかわ学びの指針12か条」を核とした「学力向上プログラム」を作成しています。

本プログラムでは、大学教官、指導主事、教員等による学力向上プログラム推進チームを組織し、学力調査結果の分析・考察等から本県児童生徒及び学校の現状と課題を明らかにして、教科等の指導法及びその改善事例、評価問題等を提供しています。

本県学力向上の課題や今後の教育の動向を踏まえ、平成27年度に「いしかわ学びの指針12か条」を改訂し、【学びの12か条+（プラス）】としてさらに進化した中長期的指針を示しました。

子供達一人一人に確かな学力を培うことができるよう、各学校の学力向上プランの見直しや指導の工夫・改善を図るための参考資料としてご活用いただき、学力調査結果等を活用した取組の一層の推進をお願いします。

新着情報

- ・ 活用力をはかる評価問題の掲載
- ・ 「学習意欲」のさらなる高まりを目指して【リーフレット】
- ・ 各教科の指導法の一覧
- ・ 指導事例 学びの12か条+（プラス）
- ・ 中学校英語 技能毎の指導の改善の方向性（英語予備調査より）

〈新着情報〉

いしかわ学力向上プログラムに新しく掲載した内容のお知らせ



現状と課題

- ・ 石川県の子どもたちの学力等の現状
- ・ 学力の状況について分析から分かったこと

全国学力・学習状況調査及び
県基礎学力調査の「結果の概要」（H20～）

全国学力・学習状況調査の分析及び
県基礎学力調査の分析と考察（H20～）



学力向上のための中長期的指針

- ・ 学びの12か条+（プラス）
- ・ 学びの12か条+（プラス）の解説

学びの12か条+（プラス）概要版

これからの社会を生き抜く児童生徒に培いたい力や
事柄について、今後の取組の方向性を提示



課題に応じた指導法や指導事例等

- 各教科の指導法の一覧

- 国語の指導法
- 算数・数学の指導法
- 理科の指導法
- 英語の指導法

学びの12か条+（プラス）を項目別に閲覧可能

教科毎の指導法を印刷したい場合は、こちらをクリック

現状の課題、具体的な指導の方向性等を提示

- 中学校英語 技能毎の指導の改善の方向性（英語予備調査より）

- 県基礎学力調査の改善事例

県基礎学力調査の改善事例を提示

- 学びの組織的実践推進事業【リーフレット】

- 能動的学習推進事業【推進校実践事例集】

本県推進事業（H27～H29）の取組の成果

- 好事例の取り組み

- 小学校の取組
- 中学校の取組

金沢大学の先生方による報告

授業チェックポイント例を提示

- 「学習意欲」のさらなる高まりを目指して【リーフレット】



評価問題等

活用力をはかる評価問題、県基礎学力調査問題、
県評価問題を設問毎に掲載

※日々の授業でご活用ください。

- 活用力をはかる評価問題

- 指導事例 いしかわ学びの指針12か条

- 指導事例 学びの12か条+（プラス）

- 県基礎学力調査問題

指導事例（H21～H27）を掲載

学年別（H20～）を掲載

指導事例（H28～）を掲載



お知らせ

- 学力向上関係事業
- 分析・考察のための資料作成ファイル
- その他

本県推進事業の紹介

3 いしかわ学力向上プログラム 各項目の紹介

(1) 現状と課題

現状と課題

- ・ 石川県の子どもたちの学力等の現状
- ・ 学力の状況について分析から分かったこと

① 石川県の子どもたちの学力等の現状 ② 学力の状況について分析から分かったこと

◆石川県の子どもたちの学力等の現状

- ・ 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査「結果の概要」
- ・ 平成31年度県基礎学力調査「結果の概要」
- ・ 平成30年度全国学力・学習状況調査「結果の概要」
- ・ 平成30年度県基礎学力調査「結果の概要」
- ・ 平成29年度全国学力・学習状況調査「結果の概要」
- ・ 平成29年度県基礎学力調査「結果の概要」

◆学力の状況について分析から分かったこと

- ・ 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析.pdf
- ・ 平成31年度（令和元年度）県基礎学力調査「分析・考察と指導事例」
- ・ 平成30年度全国学力・学習状況調査の分析
- ・ 平成30年度県基礎学力調査「分析・考察と指導事例」
- ・ 平成29年度全国学力・学習状況調査の分析
- ・ 平成29年度県基礎学力調査「分析・考察」

各学校に配付
している冊子
の内容を掲載

平成31年度（令和元年度）
「基礎学力調査」
— 結果の概要 —

令和元年7月
石川県教育委員会

平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
— 結果の概要 —

令和元年9月
石川県教育委員会

平成31年度（令和元年度）
「基礎学力調査」
— 分析・考察と指導事例 —

令和元年10月
石川県教育委員会

金沢大学と連携して作成

2019年度 全国学力・学習状況調査の分析

目次

○目的と方法・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

○結果・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1 小学6年生の児童質問紙回答傾向と教科成績との関係・・・ 3

2 中学3年生の生徒質問紙回答傾向と教科成績との関係・・・ 4

3 小学校の学校質問紙回答傾向と教科成績との関係・・・・ 7

4 中学校の学校質問紙回答傾向と教科成績との関係・・・・ 9

○学びの12か条＋（プラス）の観点から・・・・ 13

(2) 学力向上のための中長期的指針



学力向上のための中長期的指針

- ・ 学びの12か条+(プラス)
- ・ 学びの12か条+(プラス)の解説

本県の学力向上の課題や今後の教育の動向を踏まえ、いしかわ学びの指針12か条を改訂

① 学びの12か条+(プラス)

石川の子どもの学力を伸ばす

改訂 いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条 +】

活用力を高める授業づくり

- 1 物事を多様な観点から考察する力の育成
 - ・ 得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
 - ・ 他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする
- 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成
 - ・ 知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【**アクティブ・ラーニング**】を進める
 - ・ 各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する
- 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成
 - ・ 考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
 - ・ 思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

- 4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

(本書では、5～12条を省略)

② 学びの12か条+(プラス)の解説

いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条 +】 解説

これからの社会においては、様々な文化的背景、考え方、利益などの異なる他者と問題や課題を共有し、価値観の違いを乗り越えて共に解決に取り組むことが必要となる場面が、世界の国々の間はもちろん、私たちの身近な地域での取組の際にも多く現れてくると考えられる。

求められる「学力」や「知識」の在り方も、この間、大きく変貌を遂げつつある。

21世紀に入って以降、従来の、受験・選抜のための固定的な知識量を問うこと、制限された条件下での解答技能からその力を測る、いわゆる「受験のための知識・学力」は相対的に地位を下げ、変わって実際の社会で活躍する際に用いることができる汎用的な力や技能、

(本書では、下記省略)

(3) 課題に応じた指導法や指導事例等

課題に応じた指導法や指導事例等

- ・ 各教科の指導法の一覧
 - 国語の指導法
 - 算数・数学の指導法
 - 理科の指導法
 - 英語の指導法
- ・ 中学校英語 技能毎の指導の改善の方向性（英語予備調査より）
- ・ 県基礎学力調査の改善事例
- ・ 学びの組織的実践推進事業【リーフレット】
- ・ 能動的学習推進事業【推進校実践事例集】
- ・ 好事例の取り組み
 - 小学校の取組
 - 中学校の取組
- ・ 「学習意欲」のさらなる高まりを目指して【リーフレット】

学びの12か条+（プラス）及び新学習指導要領に対応した、教科別の指導法を掲載

① 各教科の指導法の一覧

◆算数・数学の指導法

ここでは、「改訂いしかわ学びの指針12か条【学びの12か条+（プラス）】」，特に，活用力を高める（下記の力を身に付ける）授業づくりに向けた指導法をあげる。

1 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ・ 得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ・ 他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ・ 知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める
- ・ 各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ・ 考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ・ 思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

(1)得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする。

解説

事象を数学的に捉える際には、数量や図形及びそれらの関係などから批判的に捉え（クリティカルシンキングをし）たり、明確な概念に着目してその特徴や本質を捉えたりするなど、それらを関連付けながら統合的・発展的に考えることが大切である。

指導のポイント

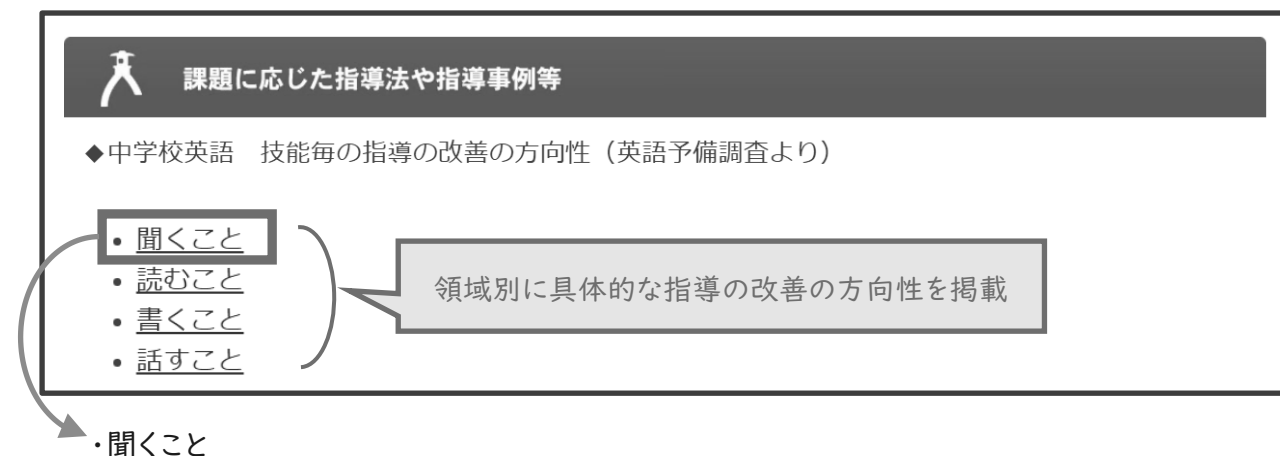
①多様な見方・考え方を働かせながら事象を数学化する活動を重視する

（中略）

例えば、次の問題は、二人のヒストグラムを比較して、そこから分かる特徴を基に、次の1回でどちらの選手がより遠くへ飛びそうかを判断し、その理由を説明する、オープンエンドの問題である。この問題では、どちらの選手を選んでも、その選手を選んだ理由が適切であれば正答としており、自分が選んだ選手についてその選手を選んだ理由を説明することが必要である。批判的（クリティカルシンキング）とは、決して相手の意見を否定するということではなく、Aという考えもあれば、Bという考えもあり、また、Aという考えを別の視点から見る事でCという考えが出てくるといった見方の多様性を示している。批判的思考（クリティカルシンキング）とは、決して他者の見解の揚げ足をとることではなく、考えには、人それぞれ異なる見方があり、他者の意見を受け止めつつ、建設的な提案をすることが大切である。

（本書では、下記省略）

② 中学校英語 技能毎の指導の改善の方向性（英語予備調査より）



（例）

H30 全国学力・学習状況調査 「中学校英語予備調査問題」から Listening

1 これからの指導の方向性を示す問題「聞くこと」

（本書では、問題省略）

2 本問題を通してつきたい力

◇出題の趣旨〔活用に関する問題〕

- ・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。

（本書では、一部省略）

3 本問題を通した現状の課題として考えられること

- 英語を最初から最後まで聞き、「全体としてどのような話のあらましになっているか」という「概要」を意識して聞く活動が不足している。
- 「概要を聞き取る」とことと、「要点を聞き取る」ことを意図して指導することに弱さが見られる。

4 具体的な指導の改善の方向性

- 聞き取る際の状況や目的（概要を捉える・要点を捉えるなど）を明確にし、聞き取った後でどのような活動を行うのかを生徒と共有する。
- 話題やテキストの形式に応じた聞き方を指導する。

H27「基礎学分析・考察」改善事例1 参照

[例]・【事前】「テーマ」からどのようなことが話題になるか、どのような内容（表現）が出てきそうか推測させ、交流する

- ・繰り返し出てくる語句や強く読まれる語句などから話題を捉えさせる
- ・「5W1H」に着目し、要点をつかませる
- ・「文章構成」とともに、「接続詞」の働きを意識させる

※「文章構成」「接続詞」については、H25 「基礎学分析・考察」改善事例2 参照

（本書では、下記省略）

③ 県基礎学力調査「分析・考察」の改善事例



課題に応じた指導法や指導事例等

◆県基礎学力調査「分析・考察」の改善事例

平成31年度（令和元年度）

- ・小学校4年国語

事例1：

伝えたいことを伝えるために、主語と述語を照応させて文を書く学習活動を充実すること

事例2：

相手や目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にしながらかく学習活動を充実させること

小学校4年算数

事例1：

分数の意味や表し方を理解できるよう、図等を用いて分数を表し、大きさを読み取ったり比べたりする活動を重視すること

事例2：

グラフから情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること

各学校に配付している冊子の内容を教科別に掲載

・小学校算数 事例1〈対象2・3年〉

③ 改善事例 第2・3学年「分数」

1 指導のねらい

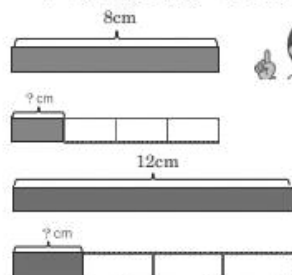
分数の意味や表し方を理解できるようにする。

2 具体例

分割分数と量分数の意味の違いを理解させる指導法について教えてください。

(1) 元の大きさを意識させる活動（分割分数：2学年）

問 同じ長さになるように
テープを4つに分けます。
1つ分の長さを調べましょう。



元の長さが違う場合で比較するとよいでしょう。

具体的に2学年ではどんな場面で指導すればよいですか？

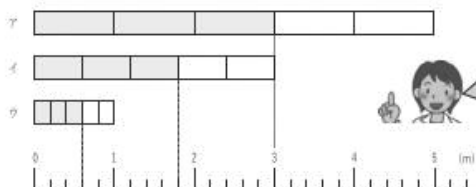
実際にテープを4等分して青のテープの1/4と赤のテープの1/4ではそれぞれ長さが異なることを実感させます。その後どう発問しますか？

「青のテープの1/4と赤のテープの1/4では同じ1/4だけど、どうして長さがちがうのかな？」と聞いてはどうでしょう？

そうですね。元の長さが違うとその1/4の長さがちがうことを説明できますね。さらに元の長さが等しい場合はその1/4の長さも等しいことも確認するとよいですね。

(2) 測定した時の量の大きさを読み取る活動（量分数：3学年）

問 色をぬったところの長さが
3/5mのテープはどれでしょう？



左のようなテープ図から3/5mを選ぶ際、3学年の指導ではどのようなことに気を付ければよいですか？

どれも5等分した3個分の長さだから全て3/5mと考える児童がいるかもしれませんね。そんな時は「どれも同じ長さでいいの？」「3/5mはどんな長さなの？」と問い返すことで量分数の意味を確認しましょう。

3/5mは1mを5等分した3個分の長さだから正しいのはうだ。こういった説明でよいのですか？

（本書では、下記省略）

(例)

学びの組織的実践を推進する
ためのポイント等を掲載

学力向上ロードマップ^oの作成と活用

【学力向上ロードマップ例】
【目標】



⑤ 能動的学習推進事業【推進校実践事例集】

推進校の実践の概要や成果を掲載

目次

1	能動的学習推進事業の概要	2
2	各推進校の取組	
	【小学校編】	
	小松市立第一小学校	4
	白山市立千代野小学校	6
	金沢市立泉野小学校	8
	羽咋市立羽咋小学校	10
	珠洲市立飯田小学校	12
	【中学校編】	
	小松市立丸内中学校	16
	金沢市立野田中学校	18
	かほく市立高松中学校	20
	中能登町立中能登中学校	22
	輪島市立東陽中学校	24
	石川県立金沢錦丘中学校	26

⑥ 好事例の取組

小・中学校8校の好事例の取組を掲載

(例)

～小学校の取組～

学力向上に向けた好事例の取組についての報告

金沢大学 松原 道男

各学校において学力向上の取組が行われているところであるが、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に向けた取組も多く見られる。しかし、たとえば指導計画において、話し合いの場を設定することとか、振り返りの時間を設けることといった形式だけを中心に議論している学校も見受けられる。そのような学校では、話し合いの場はあっても話し合いで深まっていない、振り返りは書くが子どもは何が理解できたかなどの学習の到達状況を振り返ることができず、簡単な感想のみになっていることがある。

好事例の取組として2校を訪問したが、学校での取組においては、このような形式論にとらわれず、たとえば話し合うためにはどのような力を育てていかなければならないのか、児童の能力に目を向けている。そして、学校の現状から何をしていくべきかを教師どうしが共有していることが窺える。

以下、学校の取組について、参考になる点を紹介する。

- 〈かほく市立外日角小学校〉の取組の紹介(本書では、省略)
- 〈七尾市立石崎小学校〉の取組の紹介(本書では、省略)

学力向上に向けた好事例の取組についての報告

金沢大学 加藤 隆弘

石川県内では、各地域・学校において着実に学校研究・授業研究に取り組み、それぞれ成果や次に続く課題を明らかにしてきた。また、私どもも「いしかわ学びの指針12か条」これに続く「学びの12か条+ (プラス)」等を通して、授業や学校研究の基盤をしっかりと築き、学校・子ども・地域が見通しを持って力を合わせ、取組を積み重ねて実感ある豊かな学びにつなげることなどを提案してきた。

いずれの地域・学校も、取組を前に進めるその中で、様々な課題に直面し、あるいはうまく行かないで立ち止まることもあるだろう。が、切り分けてみると、どこかの地域・学校で既に同様の課題問題に直面し、それらを乗り越えてきた、という先行事例も多くある。これらをつなげ、アレンジすることで、より効果的な取組が期待できる。

今回の好事例に含まれる取組からその一端を探る。

- 〈能美市立寺井小学校〉の取組の紹介(本書では、省略)
- 〈能登町立小木小学校〉の取組の紹介(本書では、省略)

～中学校の取組～

学力向上に向けた好事例の取組についての報告

金沢大学 松原 道男

各学校においては、学力向上ロードマップをもとに教員全体が学力向上に取り組んでいるところである。今回、好事例の取組として2校を訪問した。両校ともに新学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びのための工夫に共通点もみられたが、各学校において独自の取組もみられた。

辰口中学校においては、総合的な学習での学習成果を新聞や卒論にしていくことを目指している。そのために各教科においては、書いてまとめることを重視した取組を行っている。一方、宇ノ気中学校では、まずは各教科の授業をしっかりと行うことを基盤にするとともに、生徒どうしがお互いの良さを認め合い、伝え合うことを重視した取組を進めている。

このように両校ともに、生徒に育成すべき能力と態度を明確にしている。以下、それぞれの学校において参考になる取組を紹介する。

- 〈能美市立辰口中学校〉の取組の紹介(本書では、省略)
- 〈かほく市立宇ノ気中学校〉の取組の紹介(本書では、省略)

学力向上に向けた好事例の取組についての報告

金沢大学 加藤 隆弘

県内中学校では、これまでそれぞれの学校(生徒、教師、地域を含む)の特性…得手不得手を分析し、これから求められる力を見据え、授業改善、学力向上に取り組んできた。あわせて、2010年のいしかわ学びの指針では、全国学力・学習状況調査分析を基に、石川県の児童生徒が付けたい力、目指す学びの姿として、1) 論理的な思考表現(根拠・筋道を明確に)、2) 得た情報を多面的・多角的に思考する、3) 学んだことを活用して考え、取り組む、の三つの柱を提示し、4) 自分の言葉で書き、表出すること、をはじめとした培うべき学びの基盤を提示した。以後、各学校、地域では、分析、指針等を踏まえて学力向上ロードマップを作成し、培いたい力とその手立てを学校全体で共有しながら学力向上、授業改善に取り組んできた。これらの取組により、県全体としてみると、「論理的に書く・話す」ことについては着実に力を培い、成果を挙げつつある。一方、書いたこと、話したことをどうつなげ、深めたり広げたりするか、といった、今次学習指導要領にも関わる、これからの学びにつながる部分での課題が浮き彫りになってきた。

今回、好事例として穴水町立穴水中学校、羽咋市立邑知中学校の二校に伺い、取材させていただいた。穴水中学校では、学校全体でつくる学習基盤・学習規律の徹底と、学ぶ意欲・自信を培うための丁寧な取組に特色が見られた。邑知中学校では、温かい人間関係を基盤に、個々の考えを出し合い、深めてよりよくしようと主体的に関わり、学ぼうとする生徒の姿を見ることができた。

本稿では、この二校の取組から、今後の学習をつくる上で参考となるポイントを例示する。

- 〈羽咋市立邑知中学校〉の取組の紹介(本書では、省略)
- 〈穴水町立穴水中学校〉の取組の紹介(本書では、省略)

⑦ 「学習意欲」のさらなる高まりを目指して【リーフレット】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善における授業チェックポイント例，
「学びの主体」としての子どもたちの意識を高めるための取組例を紹介した写真を掲載

**「学習意欲」のさらなる
高まりを目指して**

**「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた授業改善**



新学習指導要領改訂基本方針より

- 子供たちが社会の変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性を働かせて社会や人生をより豊かなものにしていく力を身に付けられるようにすることが重要である。
- 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の観点から授業を改善する。

石川県教育委員会
平成31年3月

教科等で身に付けるべき資質・能力とは…
★知識・技能 ★思考力・判断力・表現力 ★学びに向かう力・人間性

＊学ぶ意義と自分の人生や社会のあり方をつなげて考える
主体的な学び

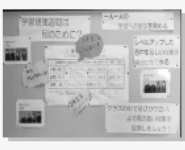
学びの主体として「目指す授業」について考え、全校で共有する



いっしょに学びのスタイル
「自分たちで決めたルール」を守って学びたい



学びの主体として「目指す授業」について考え、全校で共有する



**主体的・対話的で
深い学び**

◎「授業（単元）で付けたい力」を明確にし、子どもたちと共有して、
「学びの主体」としての子どもたちの意識を高めましょう！

授業チェックポイント例	
① 課題（内容・表現）は、目の前の子どもたちの実態に合い、意欲が高まるものになっていますか？	☐
② 課題解決に向けて、子どもたちが共通しをもてる（予想や計画が立てられる）ような工夫をしていますか？	☐
③ 45（50）分間の効果的な時間配分を常に意識して進めていますか？	☐
④ 個の考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげていますか？	☐
⑤ ペア学習・グループ学習では、子どもたちが必要感をもって取り組めるようなしなかけをしていますか？	☐
⑥ 互いによく聴き合い、返事や反応をしっかりとるように指導していますか？	☐
⑦ 本時のポイントが分かる見やすい板書や、効果的な教具の工夫をしていますか？	☐
⑧ キーワードを明確にした「まとめ」、実感を自覚させる「振り返り」をノート等に明記させていますか？	☐
⑨ 評価の場では、子どもたち個々の姿を的確に見取っていますか？	☐
⑩ 「付けたい力」について適切に評価し、次の指導に生かしていますか？	☐

この授業（単元）で

◎新しく知ることができた
できるようになった

◎より深く分かった
よりよくできるようになった
◎誤りに気づいて修正できた
正しく理解できた

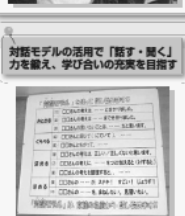
よりよく変わる喜び・学ぶ意欲の高まり

＊多様な人との対話や書物等を手がかりに考えを広げ深める
対話的な学び

グループでのホワイトボード活用
で個の考えを広げ、深める



対話モデルの活用で「話す・聴く」
力を鍛え、学び合いの充実を目指す



グループ学習で「話す・聴く」
力を鍛え、学び合いの充実を目指す



（本書では、一部省略）

(4) 評価問題等



評価問題等

毎年、金沢大学と連携して作成した問題を掲載

- ・ 活用力をはかる評価問題
- ・ 指導事例 いしかわ学びの指針 12 か条
- ・ 指導事例 学びの 12 か条 + (プラス)
- ・ 県基礎学力調査問題

① 活用力をはかる評価問題



評価問題等

◆ 活用力をはかる評価問題

※ 以下の手順に沿って、「活用力をはかる評価問題」をご活用ください。

【「Internet Explorer」でご覧になる場合】

- ・ 問題をクリック → 保存 → ファイルを開く

【「Google Chrome」でご覧になる場合】

- ・ 問題をクリック → 画面左下の問題をクリック

◆ 国語 小学校問題例

日々の授業や学力向上の取組の成果検証にご活用ください。

◆ 国語 | 小学校問題例

学 年	知識・理解	思考・判断・表現		
		A 話すこと・聞くこと	B 読むこと	C 書くこと
1	・ 丸、点、かぎ、(PDF) ・ 正しく書く〈は、へ、を〉(新), (PDF)	・ クイズを出す ・ きいてみよう1 ・ きいてみよう2 ・ きいてみよう3 ・ きいてみよう4	・ 説明文「たね」(内容把握), (PDF) ・ 説明文「たね」(活用), (PDF) ・ 民話, (PDF) ・ 物語「りぼん」, (PDF)	・ 観察して書く
2	・ 表の読み取り, (PDF)	・ 順序立てて話す(新), (PDF)	・ 文章に合う題名	・ 観察して書く「カメ」, (PDF) ・ くみ立てを考えて書く, (PDF)
3	・ 気持ちを表す言葉 ・ 修飾と被修飾の関係, (PDF)	・ よい聞き手 ・ 司会進行 ・ 資料を基にして話す(新), (PDF)	・ 登場人物像 ・ 感想を伝える	・ 書き換え ・ 感想の書き方 ・ 報告文

(本書では、下記省略)

次頁
問題例掲載

・国語 小学校問題「順序立てて話す」〈対象2年:話すこと・聞くこと〉

小学校国語 問題例 【対象 低学年】
付けた力〔3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

（１）考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする

○ かなさんのクラスでは、あったらいいなと思うものを、はっぴようする会をひらくことになりました。かなさんは、「お魚水ぎ」というものを考えてて、話したいことを【カード】に書きました。

もんだい1

かなさんは【カード】をつかって話すじゅんじよを考えています。アとウは、【はっぴようメモ】の「おわり」と「中」に入れました。のこりのイ、エ、オは、どこに入れたらよいですか。「はじめ」と「中」に分けて（ ）の中に記号で書きましょう。

【カード】



お魚水ぎ

【はっぴようメモ】

オ	エ	ウ	イ	ア
はたらき ・はやくおよぐことができる。 ・魚といっしょにおよぐことができる。	考えたものの名前 ・「お魚水ぎ」	考えたわけ ・魚みたいにおよぐことができたのしいだろうなど思ったから	形や大きさ ・魚のおびれの形。 ・足につけるくらい大きさ。	おわり ・みなさんもあったらいいなと思いませんか。 ・これで、おわります。

おわり	中		はじめ
ア	()	ウ	()

○ かなさんは、【はっぴようメモ】をつかって、あったらいいなと思うものを、はっぴようしました。



かなさん

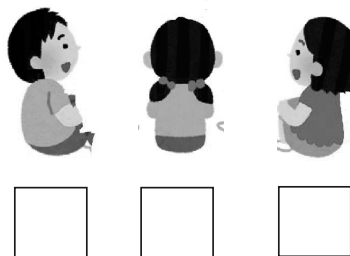
もんだい2

つぎのふき出しは、かなさんのはっぴようをきいたクラスの友だちのしつもんやかんそうです。どんなことについてのしつもんやかんそうですか。【しつもんやかんそうのしゅるい】のア、イ、ウから一つずつえらんで、□に書きましょう。

大きな声で話してくれたので、よく分かりました。

魚といっしょにおよぐことができるところが、いいと思いました。

「お魚水ぎ」は、どうやって足につけるのですか。



【しつもんやかんそうのしゅるい】

ア 「お魚水ぎ」についてのかんそう
イ もっと知りたいことについてのしつもん
ウ 話し方についてのかんそう

◆県基礎学力調査問題 | 理科 | 中学校

年度	問題	正答基準表
(一部省略)		
H29	・ 1・2・3・4・5・6・7・8	・ 正答基準表
H31	・ 1・2・3・4・5・6・7・8	・ 正答基準表

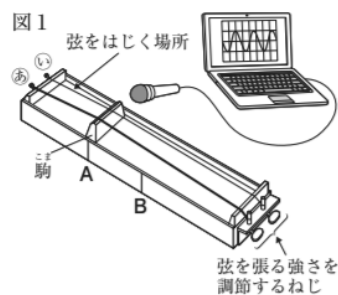
・県基礎学力調査問題 理科 中学校 (H31 2)

- ② 花子さんは、ギターで高さの違う音が出る仕組みについて興味をもち、2本の弦のついたモノコードで、弦の太さや長さ、音の高さとの関係について調べ、レポートにまとめました。あとの問いに答えなさい。

花子さんの実験レポートの一部

【方法】

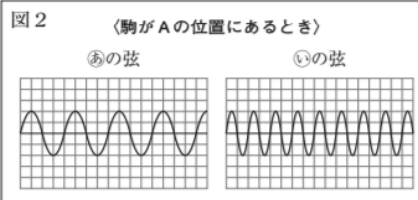
- 図1のように、太さの違う弦④、⑤が張られたモノコードで、Aの位置に弦の長さを変える駒をつける。
- 指で弦をはじき、音の高さを調べると同時に、マイクとコンピュータを使って画面に現れる波の形を分析する。
- 弦の太さや弦を張る強さは変えず、駒の位置をBに変え、音の高さとコンピュータの画面の波の形を分析する。



【結果】

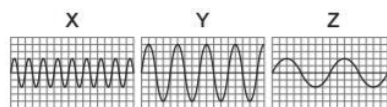
〈駒がAの位置にあるとき〉

- ・⑤の弦をはじいたときの方が、高い音が出た。
- ・それぞれの弦をはじいたときの波の形は図2のようになった。



- (1) ギターやモノコードは、弦の振動によって音が出ます。一定時間（1秒間）に弦が振動する回数を何というか、書きなさい。また、その単位を書きなさい。

- (2) 【方法】③で、駒の位置をBに変え、④の弦をはじいたときのコンピュータの画面に現れる波の形を、右のX～Zから1つ選びなさい。



- (3) 花子さんは、さらに「弦を張る強さ」と「音の高さ」との関係を、同じモノコードを使って調べたいと考えました。弦について、変えない条件を2つ書きなさい。

- (4) モノコードの駒の位置を変えることは、図3のようなギターでは何を変えることと同じになるか、次のア～エから1つ選びなさい。

図3



- ア ねじを回して弦を張る強さを変えること。
 イ 弦をはじく強さを変えること。
 ウ はじく弦の太さを変えること。
 エ 弦を押さえる指の位置を変えること。

◆県基礎学力調査問題 英語 中学校

教科別、年度別、設問別に掲載

◆県基礎学力調査問題 | 英語 | 中学校

年度	問題	正答基準表
H20	・リスニング問題1 2 3・4・5・6・7・8・9・10 (一部省略)	
H29	・リスニング問題1 2 3 4・5・6・7・8・9・10・11	・正答基準表
H30	・リスニング問題1 2 3 4・5・6・7・8・9・10・11	・正答基準表

・県基礎学力調査問題 英語 中学校 (H30 8)

- 8 英語部の拓也^{たくや}さんは、英語で紙芝居^{しばい}を作り、小学校の子ども達に読み聞かせました。次の英文を読み、紙芝居の内容を表す適切なイラストを、あとのア～カから4つ選び、話の順番に並べなさい。 ㊟

Three little monkeys lived with their mother. Their names were Coco, Kiki, and Pepe.

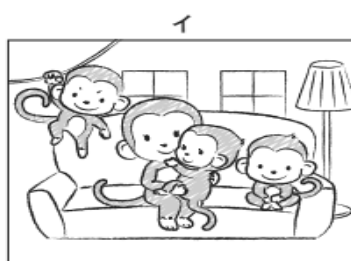
One day their mother said, “When you go out of our house, you will see delicious bananas and oranges in Mr. Dan’s field. But if you go into the field, Mr. Dan will catch you.”

Coco and Kiki were good monkeys. Pepe was not. He went to Mr. Dan’s field! He ate some bananas. When Pepe was looking for oranges, he saw Mr. Dan.

Pepe ran away. Mr. Dan ran after him. “Stop! Stop!” Pepe didn’t stop. He ran and ran.

Pepe arrived at his house. He was very tired. His mother thought, “What happened?” But she didn’t ask. She just put him to bed, and made hot milk for him.
“Good night, Pepe.”

(注) little : 幼い monkey(s) : さる

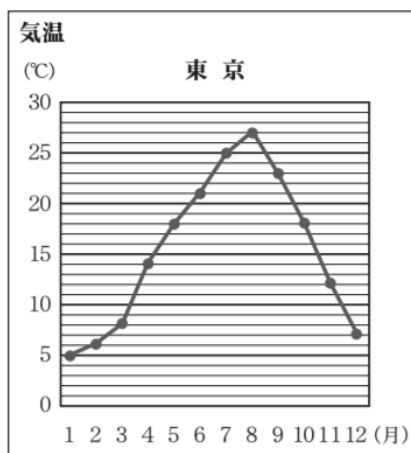
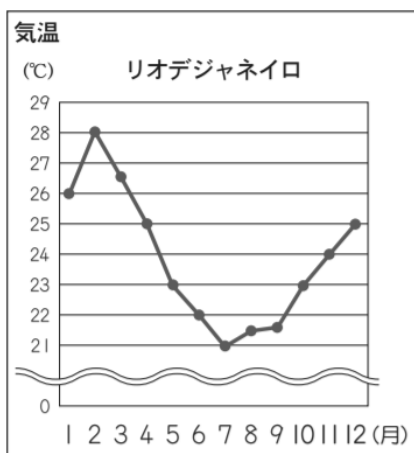


◆県評価問題 | 算数 | 小学校

年度	問題一覧表	問題	解答類型	解答用紙
(一部省略)				
H30	・12月	・1・2・3・4・5・6・7	・12月	・12月
R1	・12月	・1・2・3・4・5・6・7・8	・12月	・12月

・県評価問題 算数 小学校 (R1 7)

- 7** はるとさんたちは、東京2020オリンピック・パラリンピックにむけて、各選手や東京都などが暑さ対策の工夫をしていることを知りました。そこで、オリンピック・パラリンピックが2016年に行われたリオデジャネイロと2020年に行われる東京のそれぞれの1年間の気温について調べたところ、次のグラフを見つけました。



はるとさんたちは、上の2つのグラフを見て、次のように話し合っています。



はると

リオデジャネイロは、1年の中で7月の気温が一番低いね。
東京2020オリンピック・パラリンピックが行われる8月を比べてみると、東京より気温が低いよ。



なつき

リオデジャネイロと東京では、気温の高い時期と低い時期がずれているね。リオデジャネイロでは、1年の中で2月の気温が一番高いね。



はると

2つのグラフの変化の様子を見比べると、リオデジャネイロと東京の1年間の気温の高い時期と低い時期の気温の差は、ほとんど同じだね。

はるとさんが言っている、 部のことは正しくありません。
そのわけを、グラフからわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

② 指導事例 いしかわ学びの指針12か条（H21～H27）

◆数学 中学校指導事例

項目別に指導事例を掲載

◆算数 数学 中学校問題例

1 (1) : 物事を数量や図形などに着目して観察し的確にとらえ、数学的に表現する力

- ・ 中1指導事例2009
- ・ 中2指導事例2012
- ・ 中2指導事例2009
- ・ 中2指導事例2011
- ・ 中2指導事例2013

1 (2) : 筋道を立てて考えたり振り返って考えたりする力

- ・ 中2指導事例2009
- ・ 中2指導事例2009
- ・ 中2指導事例2014

1 (3) : 事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりする力

- ・ 中1指導事例2013
- ・ 中1指導事例2015
- ・ 中1指導事例2015
- ・ 中2指導事例2009
- ・ 中2指導事例2014
- ・ 中2指導事例2012

(本書では、下記省略)

・数学 1(3) 中1 指導事例2015

平成27年度 中学校第1学年数学 指導事例

1 (3) 事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりする力の育成

① 調査問題

設問番号	領域	出題の趣旨	評価の観点
B5 (1)	関数	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること	数学的な見方や考え方

② 改善事例 1学年 「比例と反比例」

1 指導の狙い

- ・ 目的に応じて必要な情報を選択し、その結果を事象に即して解釈をすることができる。
- ・ 数学的な解釈に基づいて、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

2 具体例

政男さんと晃さんは、高速道路を使って、2台でドライブをすることを計画しています。2人の自動車は、ガソリンを40L入れることができ、下の表のような性能を持っています。

【資料】

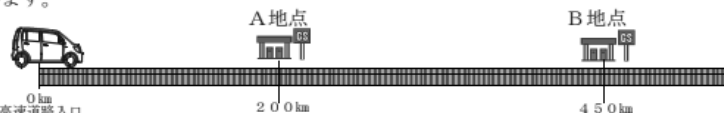
「政男さんと晃さんの自動車の性能表」		
	政男さんの自動車	晃さんの自動車
使用するガソリンの量(L)	5 L	5 L
走る距離(km)	55 km	60 km

自動車の走る距離と使用するガソリンの量の関係

$$\left(\begin{array}{c} \text{自動車の} \\ \text{走る距離} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{1Lで走る} \\ \text{距離} \end{array} \right) \times \left(\begin{array}{c} \text{使用する} \\ \text{ガソリンの量} \end{array} \right)$$

○同じ速さで自動車が走行するとき、政男さんの自動車は、ガソリン5Lで55km走行できることを表している。

2人が乗る高速道路の入り口からガソリンを入れることができる場所は、下の図のようになっています。



(1) 使用するガソリンの量の変化に伴って変わるものを捉える。

(本書では、下記省略)

③ 指導事例 学びの12か条+（プラス）（H28～）

◆数学 中学校指導事例

項目別に指導事例を掲載

◆算数 数学 中学校指導事例

1(1)：得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする

・中1指導事例2017

1(2)：他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

・中1指導事例2016

・中2指導事例2016

2(1)：知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める

2(2)：各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3(1)：考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする

・中1指導事例2017

3(2)：思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

・数学 1(1) 中1 指導事例2017

平成29年度 中学校第1学年数学 指導事例

1(1) 物事を多様な観点から考察する力の育成

得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする。

改善事例 資料の活用（学習後）

1 指導のねらい

資料に基づいて不確定な事象を考察する場面で、必要な情報を適切に選択し、判断することや資料の傾向を的確に捉えることを通して、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにする。

2 具体例

問題

ある中学校では、生徒会役員で7:00～8:00で、10分間だけあいさつ運動をしようと考えています。あなたが生徒会長だったら、どんな提案を考えますか？

(1) 問題解決の見通しを立てる。



どんな情報をもとにして考えればいいですか？ 何か知りたいことはありますか？

一人一人の登校時間がわかればいいな。



どの時間帯に何人が登校しているのかわかるヒストグラムや度数分布表があれば考えやすいと思う。



（本書では、下記省略）

④ 県基礎学力調査問題

年度別、学年別に問題を掲載

◆平成31年度

- 小学校第4学年
- 小学校第6学年
- 中学校第3学年
- 解答用紙
- 正答基準表

社会科・理科

(本書では、下記省略)

・平成31年度 小学校第6学年の一部

平成31年度
石川県 基礎学力調査問題

小学校 第6学年 社会

組 出席番号

注意

- 問題は1ページから7ページまであります。
- 解答は、全て解答用紙に書きなさい。
- 開始の合図があるまで開いてはいけません。

1ページ

① さくらさんは、石川県について学習したことを、下の説明の文章と台地図にまとめています。あとの問いに答えましょう。

石川県は、南北に細長い形をしています。県の南部は加賀地方とよばれていて、石川県で一番高い山の白山や、参拝の町(A)川があります。県の北部は能登地方とよばれていて、日本海に突き出た半島になっています。石川県には、19の市と町があり、県庁所在地は、(B)市です。交通網が整備され、石川県と接している福井県、岐阜県、(C)県とは、道路や鉄道などで結ばれています。

また、石川県では、それぞれの地域に合った産業がさかんに行われています。

(1) 学校で使っている地図帳【帝国書院31～32ページ、東京書籍33～34ページ】を参考にして、次の問いに答えましょう。

① Aにあてはまる川、Bにあてはまる市、Cにあてはまる県の県名を、それぞれ書きましょう。

② 下線部①について、さくらさんは、次のようなクイズを作りました。市役所の位置を示す地図記号をもとに、クイズの答えを書きましょう。

【クイズ】 次のヒントから分かる市はどこでしょう。

・ヒント1 七尾市から見ると、ほぼ南西の方向にあります。

・ヒント2 七尾市役所から、その市の市役所までの距離は、およそ100kmです。

③ 下線部②について、石川県と福井県を結んでいる高速道路の名称を書きましょう。

(2) 下線部③について、さくらさんは、石川県が農業を始めた人々を対象とした技術研修会を開きたいなど、農業に関する様々な取り組みを行っていることを知りました。

資料1と資料2をもとに、県がこのような取り組みを行っている目的を書きましょう。

【資料1】 主に農業を行っている人の数

年	人数(人)
2005	12000
2010	8000
2015	4000

【資料2】 主に農業を行っている人の年齢別割合

年齢	割合(%)
15～44	10
45～64	30
65以上	60

(注：資料1・2ともに石川県資料より作成)

—1—

2ページ

② かおりさんは、世界や日本の国土について学習しました。次の問いに答えましょう。

(1) 学校で使っている地図帳【帝国書院84～86ページ、東京書籍92～94ページ】を参考にして、次の問いに答えましょう。

① かおりさんは、台地図にイギリスの田グリニッジ天文台を通る経緯0度(0°)を書き入れようとしています。経緯0度(0°)を表しているのはどれですか。右の台地図の中のA～ウから1つ選び、その記号を書きましょう。

② 台地図のXの海洋名を書きましょう。

(2) かおりさんは、東京開きされる「東京オリンピック」を楽しみにしています。そこで、オリンピックが開きされる日本以外のアジアの国に興味をもち、ノートにまとめた。学校で使っている地図帳【帝国書院11～12ページ、東京書籍13ページ】を参考にして、あとの問いに答えましょう。

【かおりさんのノート】

○日本以外で開きされるアジアのオリンピック

大会名	開催年	開催国
アジア競技大会	1986年	日本
アジア競技大会	2006年	日本
アジア競技大会	2022年	日本

① 下線部①は、東京からおよそ何km離れていますか。次のA～ウから1つ選び、その記号を書きましょう。

A およそ700km B およそ1200km C およそ1700km

② 下線部②は、東京から見て、ほぼどの方向にありますか。次のA～エから1つ選び、その記号を書きましょう。

A 東 B 西 C 南 D 北

—2—

3ページ

(本書ではP4～8省略)

平成31年度
石川県 基礎学力調査問題

小学校 第6学年 理科

組 出席番号

注意

- 問題は1ページから7ページまであります。
- 解答は、全て解答用紙に書きなさい。
- 開始の合図があるまで開いてはいけません。

9ページ

① こうたさんとかおりさんは、教室で飼っているメダカについて話し合っています。次の問いに答えましょう。

(1) 右の図は、水そうのメダカをスケッチしたものです。Xのメダカは、おすどめすのどちらか書きましょう。

こうたさん：教室のメダカには毎日水をあげないといけないのに、池のメダカは水をあげなくても生きています。

かおりさん：池の水に何かひみつがあるのかな。池の水をけんじで調べてみよう。

(2) 2人は、池からとってきた水をプレパラートにして、けんじで観察しました。すると、円の右下に小さな生き物の一部が見えました。円の真ん中に見えるようにするためには、プレパラートをどの方向に動かせばよいでしょうか。右のA～Dの中から1つ選び、その記号を書きましょう。

(3) 2人は、池のメダカがえさをあたなくても生きていく理由について、話をしています。池の水を観察した結果からその理由は何だと考えられますか。次の①、②にあてはまる言葉を書きましょう。

こうたさん：プレパラートの中にいるような大きな動きのいるものがないよ。

かおりさん：緑色をしているものもないね。

こうたさん：けんじで観察した()を、池のメダカは()と考えられるね。

(4) かおりさんは、空気と水にどのような性質があるかを調べるために、注し器を使って実験をしました。次の問いに答えましょう。

(1) 右の図のように注し器に空気を入れ、矢印の向きにピストンをおしました。その後、指をはなすとピストンは、どうなりますか。次のA～エの中から1つ選び、その記号を書きましょう。

A ピストンは上がり、おす前の位置より上の位置で止まる。

B ピストンは上がり、おす前の位置より下の位置で止まる。

C ピストンは上がり、おす前の位置より下の位置で止まる。

D ピストンは、おした位置で止まる。

—1—

10ページ

(2) 注し器とつながった容器の中に水や空気を入れ、下のA～エのよう書きなさい。矢印の向きに力を入れたとき、左側の注し器のピストンが動くものと動かないものがありました。動くものに○を、動かないものに×をそれぞれ書きましょう。

A 空気 B 水 C 空気 D 水

(3) 右の図のペットボトルX、Yを冷凍庫に入れて冷やそうと、Yのペットボトルが小さくへこんでいました。その理由を、かおりさんは次のように考えました。かおりさんの考えの()にあてはまる言葉を書きましょう。

冷やされると空気も水も体積は小さくなるけれど、空気は水より体積の変わり方が()から、Yのペットボトルが小さくへこんでいたね。

③ こうたさんとかおりさんは、豆電球やソーダを使って、電気のはたらきについて調べました。次の問いに答えましょう。

(1) 2人は、かん電池2個と豆電球を使って、いろいろなつなぎ方を考えました。右の図の豆電球と同じ明るさになるつなぎ方を、次のA～エの中から1つ選び、その記号を書きましょう。

A B C D

(2) 2人は、ソーダで走る車を、かん電池2個を使って作りなさい。右の「かん電池1個の車」と進む向きが反対の車を、次のA～エの中から1つ選び、その記号を書きましょう。

また、進む向きが反対になる理由を、「かん電池」「電流」「ソーダ」という言葉を使って書きなさい。

A B C D

—2—

11ページ

(本書ではP12～16省略)

(5) お知らせ



お知らせ

- ・ 学力向上関係事業
- ・ 分析・考察のための資料作成ファイル
- ・ その他

① 学力向上関係事業

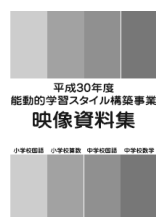
本県の推進事業の内容を掲載

◆ 学力向上関係事業

能動的学習スタイル構築事業

能動的学習推進事業で開発した優れた指導法や優秀教員等の指導技術等を集約した映像資料を作成、各市町及び各学校に配布し、校内研修等で活用することで、教員の授業改善を更に推進し、新学習指導要領の円滑な実施に向け、指導方法及びその評価方法の工夫・改善を図ります。

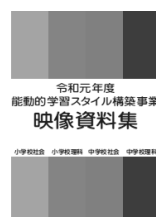
・ 能動的学習スタイル構築事業 映像資料集 (DVD)



平成30年度 能動的学習スタイル構築事業 映像資料集

目次

事例1	白山市立千代野小学校 (第6学年 国語)	… 3
事例2	珠洲市立飯田小学校 (第6学年 国語)	… 5
事例3	小松市立第一小学校 (第6学年 算数)	… 7
事例4	羽咋市立羽咋小学校 (第6学年 算数)	… 9
事例5	輪島市立東陽中学校 (第2学年 国語)	… 11
事例6	県立金沢錦丘中学校 (第2学年 国語)	… 13
事例7	かほく市立高松中学校 (第2学年 数学)	… 15
事例8	県立金沢錦丘中学校 (第1学年 数学)	… 17



令和元年度 能動的学習スタイル構築事業 映像資料集

目次

事例1	白山市立明光小学校 (第3学年 社会)	… 3
事例2	輪島市立門前東小学校 (第5学年 社会)	… 5
事例3	能美市立浜小学校 (第6学年 理科)	… 7
事例4	七尾市立中島小学校 (第5学年 理科)	… 9
事例5	能美市立寺井中学校 (第1学年 社会)	… 11
事例6	志賀町立富来中学校 (第3学年 社会)	… 13
事例7	白山市立美川中学校 (第3学年 理科)	… 15
事例8	珠洲市立三崎中学校 (第1学年 理科)	… 17

各学校における授業改善の更なる推進に向け、本映像資料集 (DVD) を校内研修等で積極的に活用してください。

② 分析・考察のための資料作成ファイル

◆分析・考察のための資料作成ファイル

- ・ 令和2年度基礎学力調査「県提供の資料作成ファイル」.zip
- ・ 令和2年度全国学力・学習状況調査「県提供の資料作成ファイル」.zip
- ・ 「資料作成ファイル」利用マニュアル.pdf

全国学力・学習状況調査及び
県基礎学力調査の分析・考察に
ご活用ください。

利用マニュアルを参考にしてください。

結果表示について

○「正答率」

2020年度石川県基礎学力調査
正答率[小4]

(サンプル)

表示学級の変更

1

グラフ再表示

小4国語
学級正答率

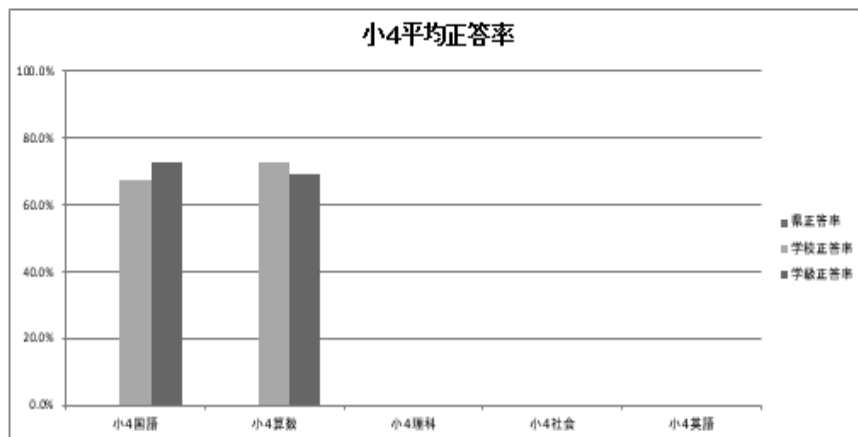
学級番号	配付状況(人数)			小4国語(%)			県全体正答率
	正答	誤答	無解答	正答	誤答	無解答	
011	20	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
012	19	1	0	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%
013	18	2	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
014	18	3	1	90.0%	15.0%	5.0%	0.0%
015	14	3	1	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%
021	19	1	0	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%
022	17	2	1	88.0%	10.0%	2.0%	0.0%
023	18	1	1	90.0%	5.0%	5.0%	0.0%
024	17	2	1	88.0%	10.0%	2.0%	0.0%
031	15	4	1	75.0%	20.0%	5.0%	0.0%
032	12	5	1	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%
033	12	7	1	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%
034	13	6	1	68.0%	30.0%	2.0%	0.0%
04	18	3	1	80.0%	15.0%	5.0%	0.0%
0501	12	7	1	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%
0502	12	7	1	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%
0503	9	11	1	40.0%	55.0%	5.0%	0.0%
06	13	6	1	68.0%	30.0%	2.0%	0.0%
0701	12	7	1	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%
0702	11	9	1	55.0%	40.0%	5.0%	0.0%
0703	9	10	1	45.0%	50.0%	5.0%	0.0%
0704	8	12	2	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%
081	14	4	2	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%
085全体	11	7	2	55.0%	35.0%	10.0%	0.0%
085内男	10	3	7	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%
085内女	9	8	9	33.0%	40.0%	27.0%	0.0%
全 体				67.3%	25.2%	7.5%	0.0%

小4国語
学級正答率

対象学級 1

学級番号	配付状況(人数)			小4国語(%)			県全体正答率
	正答	誤答	無解答	正答	誤答	無解答	
011	10	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
012	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
013	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
014	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
015	7	3	0	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
021	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
022	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
023	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
024	10	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
031	8	2	0	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
032	8	2	0	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
033	6	4	0	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
034	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
04	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
0501	3	3	0	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
0502	3	3	0	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
0503	2	8	0	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
06	7	3	0	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
0701	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
0702	7	3	0	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
0703	4	8	0	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
0704	3	7	0	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%
081	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
085全体	8	4	0	66.0%	34.0%	0.0%	0.0%
085内男	9	1	0	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
085内女	2	8	2	25.0%	60.0%	15.0%	0.0%
全 体				72.7%	26.3%	0.0%	0.0%

平均正答率	県正答率	学校正答率	学級正答率
小4国語	0.0%	67.3%	72.7%
小4算数	0.0%	72.3%	69.1%
小4理科	0.0%	0.0%	0.0%
小4社会	0.0%	0.0%	0.0%
小4英語	0.0%	0.0%	0.0%



(サンプル)

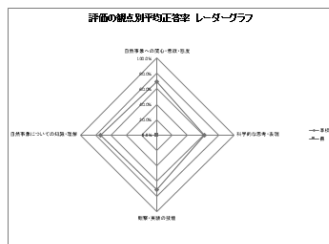
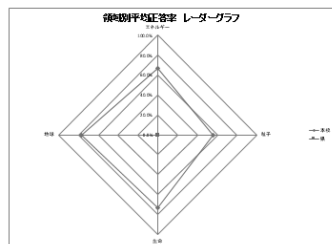
領域別・観点別調査結果[小6理科]

統計結果

母集團	平均正答率(%)
本校	68.0%
他校	0.0%

分類	区分	対象施設数(間)	平均正答率(%)		備
			実施	量	
領域	こどもへ	7	88.4%	0.0%	88.4%
	教員	8	95.8%	0.0%	95.8%
	生物	7	73.6%	0.0%	73.6%
	環境	8	77.0%	0.0%	77.0%
	自然事象への関心・理解・態度	7	89.3%	0.0%	89.3%
評価の観点	科学探究と思考・表現	11	81.6%	0.0%	81.6%
	観察・実験の技能	5	71.0%	0.0%	71.0%
	観察・実験についての知識・理解	9	72.0%	0.0%	72.0%

設問番号		設問の要旨				評価の観点				本採		準		差
設問番号	出題のねらい	工 学 力 等	技 術 力 等	生 活 力 等	地 球 力 等	自 然 事 象 ・ 人 の 行 動 ・ 環 境 ・ 社 会 ・ 科 学 的 の 思 考 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	自 然 事 象 ・ 人 の 行 動 ・ 環 境 ・ 社 会 ・ 科 学 的 の 思 考 ・ 表 現	正 答 率 （ ％ ）	誤 答 率 （ ％ ）	正 答 率 （ ％ ）	誤 答 率 （ ％ ）	正 答 率	
Q1(1)Q2	昆虫の体のつくりについて理解している。			○				○	85.0%	5.0%	0.0%	0.0%	85.0%	
Q1(1)Q3	完全変態の昆虫の育つ順序について理解している。			○				○	85.0%	5.0%	0.0%	0.0%	85.0%	
Q2	昆虫の育ち方の違いを基に、仲間分けすることができる。			○	○	○	○		75.0%	5.0%	0.0%	0.0%	75.0%	
Q2(1)	アゲハチョウの産卵場所について、昆虫の顔と関係付けて考えることができる。			○	○	○	○		70.0%	5.0%	0.0%	0.0%	70.0%	
Q2(1)	乾電池を2個使った回路つなぎを両極反接型で表すことができる。	○					○		70.0%	5.0%	0.0%	0.0%	70.0%	
Q2(2)	乾電池を2個使った回路つなぎの向きについて理解している。	○					○		70.0%	5.0%	0.0%	0.0%	70.0%	
Q2(3)	モーターの回る向きを回路を流れる電流の向きと関係付けて説明することができる。					○	○		70.0%	5.0%	0.0%	0.0%	70.0%	
Q3(1)	水の沸点について、理解している。			○				○	85.0%	5.0%	0.0%	0.0%	85.0%	
Q3(2)	船舶のしくみを日常生活にあてはめて考えることができる。			○	○	○	○		60.0%	5.0%	0.0%	0.0%	60.0%	



＜県との差が大きい設問＞

席	座	説明番号	説明の概要
1	800K	(Z)	1日の気温の変化の仕方は天気によって違いがあることについて説明している。
2	65.0K	(X) XD	昆虫の体のつくりについて理解している。
3	65.0K	(X) XD	完全変態の昆虫の育つ順序について理解している。
4	65.0K	(X)	水の循環について、理解している。
5	65.0K	(Z)	気象情報から天気を読み取ることができる。

本校が主催 説明			
席位	姓	説明番号	説明の概要
1			
2			
3			
4			
5			

＜本校の正答率が高い設問、低い設問＞

改正事項の要旨・改正前			
順位	改正前	設問番号	設問の概要
1	80.0K	(7)(1)	1日の気温の変化の仕方とは天気によって違いがあることについて理解している。
2	85.0K	(1)(1) X(2)	昆虫の体のつくりについて理解している。
3	85.0K	(1)(1) X(3)	完全変態の昆虫の育つ順序について理解している。
4	85.0K	(2)(1)	水の蒸発について理解している。
5	85.0K	(2)(2)	気象情報から天気を読み取ることができる。

正答率の高い問題			
順位	正答率	設問番号	設問の概要
1	95.0%	(四)1	開閉した窓戸や水栓を圧したときの現象も、それぞれの性質や状態から考えることができる。
2	35.0%	(四)2	塩化銀は、純白色の部分から黒い部分までについて溶解している。
3	50.0%	(四)3	水に溶けやすい物質と水に溶けにくい物質の中で、実験結果から、ふりこがけ住居する時間を長くする方法を考えることができる。
4	60.0%	(四)4	結露のしみる日常生活上ではめて考えることができる。
5	60.0%	(四)5	グラフの読みかたや単位や単位換算を取りかえることができる。

領域別・観点別調査結果 全教科(レーダー)[小4]

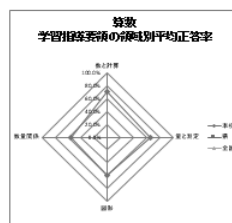
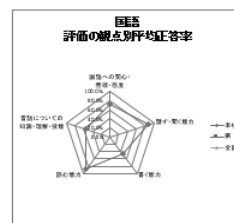
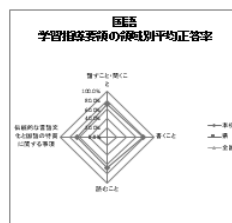
(サンプル)

小4国語

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	県	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	70.0%		
	書くこと	76.0%		
	読むこと	87.0%		
	伝わる言葉と文化と国語	85.0%		
	国語への関心・意欲・態度	73.1%		
評価の観点	話す・聞く能力	87.0%		
	書く能力	47.5%		
	読む能力	88.2%		
	国語の基礎的・基本的能力	55.1%		

小4算数

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	県	全国
学習指導要領の観点	数と計算	70.0%		
	量と図形	82.0%		
	図形	80.0%		
	数量関係	55.0%		
	算数への関心・意欲・態度	69.0%		
評価の観点	算数能力を養う力	64.1%		
	算数と他科について学び	80.7%		
	算数と他科に	79.7%		

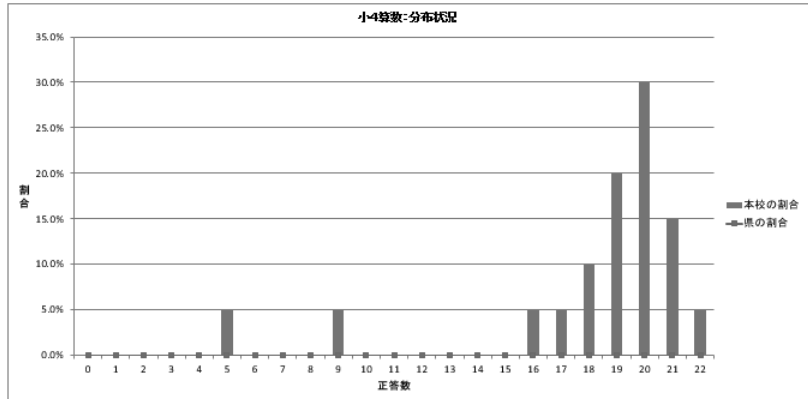


○ 「分布状況グラフ」

2020年度石川県基礎学力調査
分布状況グラフ[小4]

(サンプル)

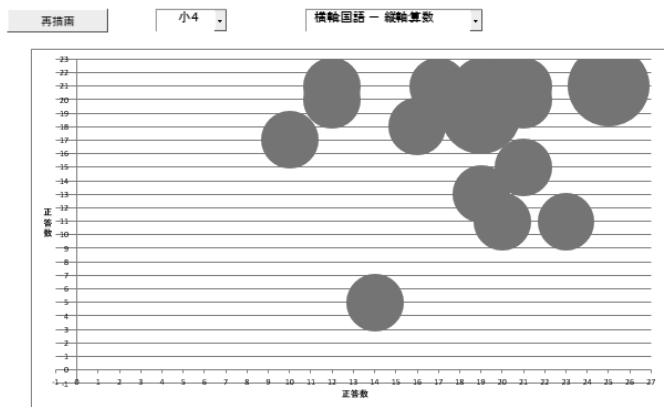
小4算数			
正答数	学校内の正答人数	本校の割合	県の割合
0	0	0.0%	0.0%
1	0	0.0%	0.0%
2	0	0.0%	0.0%
3	0	0.0%	0.0%
4	0	0.0%	0.0%
5	1	5.0%	0.0%
6	0	0.0%	0.0%
7	0	0.0%	0.0%
8	0	0.0%	0.0%
9	1	5.0%	0.0%
10	0	0.0%	0.0%
11	0	0.0%	0.0%
12	0	0.0%	0.0%
13	0	0.0%	0.0%
14	0	0.0%	0.0%
15	0	0.0%	0.0%
16	1	5.0%	0.0%
17	1	5.0%	0.0%
18	2	10.0%	0.0%
19	4	20.0%	0.0%
20	6	30.0%	0.0%
21	3	15.0%	0.0%
22	1	5.0%	0.0%
合計	20		



○ 「相関グラフ」

2020年度石川県基礎学力調査
相関グラフ

(サンプル)



○ 「質問紙集計グラフ」

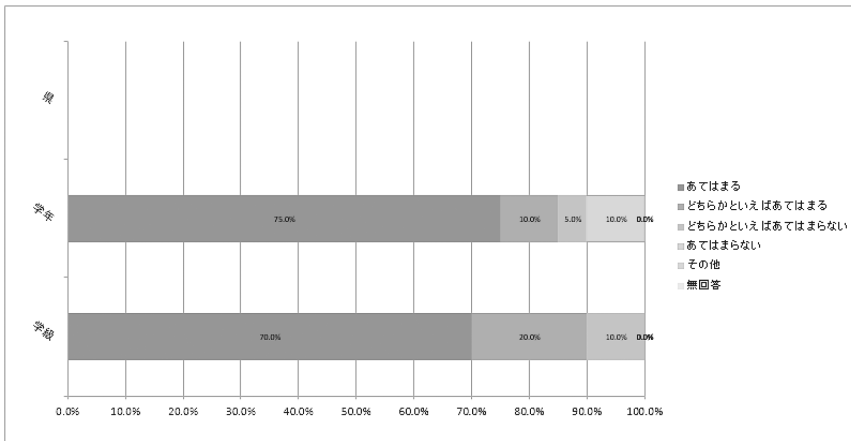
2020年度石川県基礎学力調査
質問紙集計グラフ[小4]

(サンプル)

質問番号 (8) 学級番号 1 表示

(8) 体育の勉強は好きだ。
学級 1

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	その他	無回答
学級	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学年	75.0%	10.0%	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%
県						



○ 「質問紙と正答率の関係グラフ」

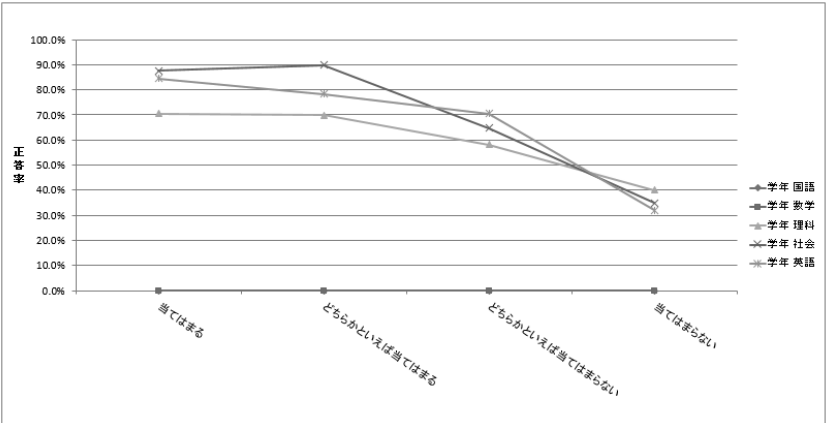
2020年度石川県英語学力調査
質問紙と正答率の関係グラフ[中3]

(サンプル)

質問番号 (29) 学級番号 1 表示

『(29) 問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。』
学級 1

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
学級	国語	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	数学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	理科	72.8%	60.9%	78.1%	20.0%
	社会	77.5%	89.4%	84.8%	20.0%
	英語	80.0%	93.3%	90.0%	20.0%
学年	国語	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	数学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	理科	70.5%	69.8%	58.1%	40.0%
	社会	87.6%	89.9%	64.8%	35.0%
	英語	84.5%	78.4%	70.5%	32.0%



改訂 いしかわ学びの指針12か条【プラス学びの12か条+】

活用力を高める授業づくり

1. 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ◇得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ◇他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方・受け取り方が身に付くようにする

2. 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ◇知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める
- ◇各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3. 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ◇考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ◇思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4. 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ◇相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う態度や姿勢が身に付くようにする

5. 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ◇文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6. よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ◇多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ◇目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7. 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ◇メディアの特性を生かした授業づくりを進める
- ◇学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

8. よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ◇家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣作りを推進する
- ◇豊かな思考・判断の基盤となる子供の語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9. 家庭や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの促進

- ◇家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ◇社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10. 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ◇学校全体で目的を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ◇小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11. 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ◇児童生徒の現状把握から原因を究明し、目標に照らした課題とその解決に向けた具体策を設定する
- ◇中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向けスモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12. 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ◇学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し、情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ◇地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域で子どもを育てる環境づくりを進める

令和 2 年度
「基礎学力調査」一指導事例一
令和 2 年 9 月発行
石川県教育委員会事務局学校指導課
〒 920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
TEL 076-225-1827
e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp